

# Tsukuba

## COMMUNICATIONS

Summer



対談  
数学リテラシーは社会に必要なか

国立情報学研究所  
社会共有知研究センター  
センター長  
新井紀子氏 × 三  
明康郎  
副学長・理事

- 8 特集 URA研究支援室
- 10 聴 平山素子 准教授
- 12 OB&OG 内田彰子 氏
- 14 学内組織紹介 教育開発国際研究協力センター
- 16 名物先生登場 板橋安人 主幹教諭(附属聴覚特別支学校)
- 18 Sports Club 鹿島神流武道部
- 20 Art & Culture 混声合唱団
- 22 Homeland アメリカ フロリダ州
- 24 TOPICS
- 30 リレーエッセイ
- 32 茗溪会・紫峰会
- 34 新聞掲載・テレビ放送一覧
- 35 イベントカレンダー

対談

# 数学リテラシーは 社会に必要か

国立情報学研究所  
社会共有知研究センター センター長

副学長・理事

新井紀子氏 × 三明康郎

## 法学と数学はそっくり

**三明:** よろしくお願ひします。まず、先生のご経歴を見せていただきますと、法学から数学へ転向されたということですが、法学関係と数学関係、先生ご自身は今、どちらのアイデンティティをお持ちですか。

**新井:** 以前は自分のアイデンティティに悩みましたが、最近は両方にバックグラウンドがあることが自分のアイデンティティなのだと思うようになりました。日本は、大学に入る前に文系理系を分けるとも珍しい国ですね。ですが、高校までは、文系といたら歴史や文学、地理など、理系だと数学と理科、そのぐらいしか勉強しないし、社会科学系の分野などは、大学に入るまでどんな学問なのかもわからない。それで理系文系を決めるとなると、数

学ができれば理系、できなかったら文系となってしまう。私も数学が苦手だったせいで文系を選んだクチですが、実は、計算がすごく苦手だったんです。

**三明:** その時期には計算が早いか遅いかで数学の能力が判断される面がありますよね。

**新井:** 今は、数学の中でも数学基礎論という分野が専門です。証明の分析というのが中心のテーマで、人間はいかに証明するか、をさまざまな角度から分析するんですが、証明をするということと、判決文を書くというのはそっくりなんです。まず、憲法や刑法といった公理系がありますよね。そして論理があつて、あるものが真か偽かと問われる。冒頭に命題が書いてあるところも似ています。「被告は有罪」つまり「フェルマーの定理は真である」のような主文が最初にあつ

て、その理由はこの公理系から導かれるため、となる。そっくりですね。だから違和感がないんです。物理だと数量的関係、論理だけではなく、量的推論があると思うのですが、それは法学にはありません。

**三明:** 判決における量刑は数量的考察ではないのですか。

**新井:** 犯罪の程度と刑罰の重さは物理的な関係とは言い難い。むしろ統計的な面があります。判決文自体は数量的なことではないんですね。ですから量的な判断という部分が、物理と法律の大きな違いだと思います。むしろ、経済は物理に似せているのではないのでしょうか。物理を模範として成っているところがあると思います。

**三明:** 僕は原子核物理が専門なんですが、アメリカの研究所にいた時の仲間は



ウォール街にどんどん雇われていきました。法学と数学という組み合わせは今まで考えたことがありませんでしたけど、確かにそういう意味では同じ考え方もしれませんね。

**新井:** 数学的な考え方をしに法律を扱うと、判例ベースになってしまう気がします。それだと大きな視点がない。個々の判例ではなく、統一的な解釈ができる視点を持つには、法学を学ぶ場合でも、数学的な素養が必要だと思います。

## 有限の中に無限は描けるか

**三明:** 先生は非理系の主婦の方々に向けて、いろいろ情報発信や本をお書きになるなど積極的に活動されていますよね。そのモチベーションは何でしょうか。

**新井:** バックグラウンドがない人に対し

てわかりやすく説明するって大変ですよ。微積分の教科書があって、その範囲でというのなら簡単なんですけど、バックグラウンドが全然揃っていない人にわかるように説明しようと思うと、自分の方が根源的なことを考えなければならなくなる。物理でも、マックスウェルの悪魔やシュレディンガーの猫の話単なる「お話」でなく、物理として成り立つように誰にでもわかるように説明するのはすごく難しいと思うんです。そういうふうに私が数学のことを話せるようになったとしたら、それは主婦の方たちや高校生にネット上で教えたことがきっかけだったかなと思います。きっかけになったのは「10cm四方の正方形の中に無限の面積を持つ図形を書けるでしょうか。また、その中に無限の長さを書けるでしょうか」という問

題でした。大学生にレポート問題で出したら、さっぱり解けなかった。その話をネットでしたら主婦の方たちが面白がって取り組んでくれたのです。

**三明:** なるほど。

**新井:** 前半は「10cm四方の中にどんな図形を書いても必ず100cm<sup>2</sup>以下になってしまう、よって無限の面積の図形は書けない」が答えです。当たり前のことなんですけど、こういう聞かれ方をしたことがないからでしょうか。成績優秀な学生でも解けなかったりします。筑波大学でもできない学生は多いかもしれませんね。

**三明:** 面白い答えがたくさん出てくるかもしれませんね。

**新井:** 正方形の中にいっぱいお星さまの絵を描いて、宇宙にすれば無限になる、と答えた学生もいました。

## 断片的知識をつなげよう

**新井:**でも宇宙も無限大じゃないですよ。それなのに宇宙って無限大だと信じてる人って多いですよ。

**三明:**なるほど。

**新井:**もしビッグバンを信じたとしますよね。137億年前に宇宙ができたときは1点だったということは百科事典に書いてあります。それで、光が1年で1光年進むから、時速かける時間を計算すると、宇宙の中心から端までの距離が求まります。つまり無限じゃない。ほんとはもっと難しい理論があるんだと思いますが、単純に考えればそうなりますよね。ビッグバンのことも距離の求め方も知っているのに、宇宙は有限だとは考えない。独立した知識はあるのだけど、それらがつながっていない。知識として断片的だから全体が論理的にならないんです。

**三明:**その通りですね。僕も先日高校で出前授業をしましたが、結構みんなダークマターとかヒッグスとか知ってるんです

よね。でも、個々の言葉と印象がぼつぼつとあるだけで、間のつながりは希薄なんですね。

**新井:**100cm<sup>2</sup>以下だから無限にはならない、というごく当たり前のことに、実はかなり多くの学生がつまづきます。

**三明:**設問はこう作られているはずだというようなことでしょうか。

**新井:**数学的に本当に面白いのは問題の後半です。比較的好くある答えは、コッホ曲線を描く方法などですが、この問題の話をしたら、主婦の方たちは無手勝流でいろいろ考え始めたんですね。中には私が想定していないような素晴らしい答えも出てきて、大変感動したんです。それで、不定形の発展的な問題をやりとりをしながらみんなで学んでいくということに関心を持つようになりました。

**三明:**日本の大学や大学院の入試では、試験の内容って大体決まってるんですよ。でもアメリカなんかだと、例えば、「この地区にあるガソリンスタンドの数を概算しなさい」、みたいな問題が出るそ

うなんです。そういう課題にとりかかって推論するという態度が求められているんですね。

**新井:**そういう気がします。昔は込み入った微分方程式が解けるような学生が優秀だということになっていたわけですが、今はそれだけでは済まなくなっている感じがしますね。

## 日本には何匹の猫がいるか

**三明:**先生は、「微積分は社会に必要か」という議論をされていますが、社会のリテラシーとして必要だとお考えですか。

**新井:**微積分というか、関数と統計でしょうか。現代社会はほとんどがそのどちらかでできているようなものですよ。定量的に未来を予測しようとする、この二つに関する基本的なリテラシーは欠かせません。リテラシーというと、つい計算方法のことを思い浮かべますが、どちらかというと、この二つの方法論を使っ



「深い知識以上に、  
他の分野とつなぐ能力が  
重視されています」

あ ら い の り こ  
**新井 紀子 氏**

国立情報学研究所 社会共有知研究センター センター長

東京都出身  
一橋大学法学部卒業  
イリノイ大学大学院数学科修了 博士(理学)  
国立情報学研究所 情報社会相関研究系教授  
社会共有知研究センターセンター長

[主な受賞]  
IASTED第三回国際ソフトウェア競技会最優秀賞(2007年10月)  
文部科学省 科学技術政策研究所ナイスステップな科学者(2008年12月)  
情報処理推進機構日本OSS奨励賞(2009年10月)  
文部科学省科学技術分野の文部科学大臣表彰(2010年4月)

て、如何に現実の問題を解くことに結びつけるか、ということかと思えます。今年、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)で埼玉県の熊谷女子高校と一緒にやっているのは、調べてもわからないような数を専門家はどうやって出しているのか、自分たちで考えるという課題です。例えば「日本中にいる猫の数は何匹か」という問題です。犬だと保健所に登録しないといけないのでだいたい数がわかりますが、猫は登録義務がないから公的なデータがない。

**三明:**3軒に1匹は飼われているという考え方でいいですか。

**新井:**ええ。まず思い浮かべるのは、サンプリングをして、町内に何匹いて、野良猫はだいたい何匹で、一人当たり飼い猫と野良猫が何匹で、日本の人口が何人だから、というやり方です。つまり、多くの生徒が自然にそのような統計的な方法を思いつく。それを理論的にサポートすることで、「ああ、統計はこのように問題解決につながるのか」と感じて欲しい

と思っています。私が考えたのは、キャットフードの出荷量を1匹が食べる量で割る方法。野良猫はいまどきネズミを食べたりしないから、死んでしまいか、誰かが餌をやっているはず。この考え方だと関数的な方法になりますよね。

**三明:**なるほど、課題として奥深いですね。

## 論理女子vs 刹那男子

**三明:**私はこの3月まで数理物質系長をしていました。その部局の課題として、学生の充足率、特に女子学生の割合を増やさなければいけないということから、「理系女子応援プロジェクト」を行いました。女子学生や院生にも集まってもらって話を聞いてみました。「文転」って言葉をご存知ですか。文系に転向するっていう意味なんです。その文転が、高校に入るときにはもう起こってしまっている。つまり、理系の女子を増やす活動は、高校ではもう遅いんですね。

**新井:**女子の場合、理系が選択肢から消えるのは、中学1年の2学期ぐらいだと思います。女子高でSSHをやっているのが問題かという、高校入学時点でもう理系はないって決めているんです。唯一、例外は医学部志望。どんな苦難を乗り越えても医者になりたいという強い意志を持った人はいますが、それ以外で理系を選ぶ生徒が少ないんですね。

**三明:**これまで高校に出前授業にいけば、きっと効果があるだろうと漫然と考えていたのですが、中学に対してやらなくてはならない。そこで中学生向けのパンフレットを作りました。

**新井:**私、女子に教えるときと男子に教えるときでは教え方を変えてるんです。

**三明:**どう違うんですか。

**新井:**男子って結構刹那的なんです。難しい問題が解けたり、ロマンがあるような話を聞くとすぐに感動して、やったみたいになって。

**三明:**確かに男子はロマンチストですよ。

「理系と文系が一緒に考える、それがグローバル人材育成ですね」

み あけ やす お  
**三明 康郎**  
副学長・理事(研究担当)

1977年 大阪大学理学部物理学卒業  
1982年 同大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)  
東京大学理学部助手  
1986年 米国ブルックヘブン国立研究所研究員  
1991年 筑波大学物理学系講師  
1993年 同大学物理学系助教授  
1996年 同大学物理学系教授  
2011年 同大学大学院数理物質科学研究科長  
同大学数理物質系長



**新井:** 男子がグループワークをしているときに一番よく言うことは「すげー」です。結局男子はすごいことが好きなんですよね。女子は全然違います。女子は「あーそうなんだ」って言い合ってます。納得感というか「わかり合えた」というのが好きなんです。数学や理科の広報の在り方って、ロマンやすごさに訴えかけるものが多いですよ。基本、男子が作っているから。

**三明:** なるほど。

**新井:** 教科書でも、こんなすごいんだぞ、みたいなことをすぐに盛り込みたがる。天才の話とか。でもキュリー夫人が好きな女子なんて滅多にいないですよ。男の先生ってそういう話してくれますよね。中学の女子だともう大人ですから、そうですねって聞いてはくれますが、あの先生いい人だよ、なんて言われて終わるんです。理系男子の典型的な空回りの仕方といいますか…。

**三明:** それ、言われたことがありますね。では、どういうふうに講義をしたらいいんでしょう。

**新井:** 女子は、「これは何の話なのか」ということを理解したがる気がします。とりあえずやってみる、というのではなくて、「どういう位置づけの話か」というのを把握したがる。女の子って結構、論理的なんです。夫婦げんかでも、お嫁さんの論理的さ加減にうんざりする男性っていっぱいいるでしょ。順序立てて問い詰められると反論できない。

**三明:** まさにその通りです。

**新井:** しかも、自分に引き付けて考えられないといやなんです。どうして関数をするのか、って聞かれたときに、新幹線もロケットも関数がないと動かないし、なんて言ってもそっぽを向かれる。そうじゃなくて、自分は関数をやる必要がある、他のことでなく関数である必然性を教えて、っていうのが女子の気持ちなんです。そこにうまく訴えかけられないと難しい。そこをきちんと分かると、同じテーマでも男子よりも女子の方がしっかりとしたレポートを書くことが少なくない。言語能力が高いんでしょうね。男子は、結果を書きたがりますが、女子は仕組みをきれいに説明しようとします。

## 人間社会に対する関心が リサーチマップの原動力

**三明:** ちょっと話題変えましょう。リサーチマップというプロジェクトをやってらっしゃいますよね。僕は研究担当ということもあって、筑波大学の研究をいかに広報にのせるか、企業とのマッチングをどうするか、が課題となっているのですが、リサーチマップで科学技術の成果を世の中に見せていこうと思った理由はどこにあるのですか。

**新井:** 今、研究業績の集積や総覧作りは、それぞれの大学が独自にやっていますが、それは効率が悪いですよ。これか

らは一つの大学にずっといる研究者って減ると思うんです。大学と企業の間を移動することもあると思います。その時に各機関のシステムが異なっていると大きなコストがかかります。ある大学で業績を入力して、別の大学に移動すると、そこでまた全部入れなおさなくてはならない。システムのメンテナンスにもコストがかかるし、移動するほど不利になる。そこで、研究者は生涯1アカウントを持って、その中で研究業績や資料を公開すれば、所属が変わっても利用し続けることができます。また、一か所に研究者の情報が集まっているので、共同研究の相手や自分と近い研究をしている人を見つけやすい。それは今までには口コミだったんですけど、研究者間の出会いが芽づる式にできて、研究が進むチャンスが増える。ツイッターやフェイスブックもありますが、リサーチマップは研究者だけが利用するので、安心してお付き合いができます。大学も、リサーチマップのデータをそのまま使って研究科のHPを作るとか、そういう情報発信ができます。

**三明:** 国や社会全体の効率を高めるといふ経済性の観点で、リサーチマップやネットコモンズをやってらっしゃるということですか。

**新井:** ユーザーにとって便利で、社会全体としても経済性が良いということと、それによって世の中の良い在り方が実現されるということの両方が必要だと思います。ウェブとか情報には経済効率が端

的に出ます。より良いものがあると乗り換えやすい。こういうもの～社会が良いでしょ、という思いや提案だけでは情報システムって流行らない。流行らないと広がらない。経済性と、研究者が分野や機関の垣根を越えて出会って共同研究が始められるというインフラを提供したいという2つの視点があります。

**三明:**そこまで駆られるのはなぜですか。

**新井:**情報学をやっている人というのは、おそらく、真理の探究ではなくて、人の活動に関心がある。どのように人は動くのか、どこがネックになって情報共有ができないのか、経済がどういう仕組みで動くのかというのと同じような関心の持ち方です。物理などは、人間社会とは独立したところに物理的な理があって、その真理を探究しようというモチベーションだと思いますが、経済や情報、人間行動には絶対的な真理はない。情報や経済が動いていく人間社会に対する関心が強いんだと思います。もうひとつは「研究を通じて役に立ちたい」という意識が強いからでしょうか。

**三明:**それはやっぱり法学から数学に変わったその延長線上にあるとお考えですか。

**新井:**そうかもしれませんね。数学の中で選んだ分野も、証明論という、人が証明をするという思考の営みを分析する分野でした。フェルマーの定理みたいに、人間の営みとは独立に普遍的な数の世界が

あって、そこではこのようなものが成り立っているということではなくて、人間が証明をするときに、実際はどこまで証明ができるのか、真理だとしてもそこにたどり着きうるのかということに関心があるんです。

**三明:**数学と言ってもかなり人間臭い領域なんですね。

## ボーダーレスでいこう

**三明:**ところで筑波大学は、昔は学部が第1学群、第2学群というふうになっていて、各学群では理系も文系も一緒になっていたんですけど、大学の組織改革の中で、そういうのはわかりにくいということで、今は他の大学と同じような学部構成になってしまいました。先生のお話を聞くと、以前の方式は良かったのかもしれないですね。

**新井:**リーディング大学院とか、理系であっても文系の素養が、文系であっても理系の素養があるような人が求められているのは、分野を細かく分割してその中で深く知識を持っている以上に、他の分野とつなぐことができるような能力が重視されているからかもしれませんね。

**三明:**グローバル人材とかよく言われますけど、どうお考えですか。

**新井:**先ほど、物理の仲間がウォール街に行くという話がありましたが、たぶんそれは、ひとりひとりの株式市場における行動をパーティクルの動きだと捉えて、あ

る公理的なルールに則って分析する、というような考え方だと思うんですね。そういう人材が理論経済学だけでなく、現場でも求められるようになってきたということかと思います。数年前に、確か、日銀の新卒採用で文系より理系が多くなったことがありました。グローバルも大切ですが、分野に関してボーダーレスになっているという認識があります。そういう時代に、数学って聞いたとたんに嫌な気持ちになるようだと、数学がバックグラウンドの人と一緒に働くことにも臆してしまつてうまくいかないと思うんです。数学や物理の考え方があって、それで解決できる分野の範囲が広がっている。自分自身が数学を極めなくても、そういう人とも一緒に仕事をする感覚を持つことに対して、大学の教養教育が役割を果たせるのではないかと思います。

**三明:**文系の方を対象に物理の話をしてみようというような試みは昔からありますけど、相対性理論なんて話を意外と面白がってくれるんですね。大学院共通科目として僕も「宇宙の歴史」という授業を担当しています。素粒子物理、原子核物理、宇宙物理、そして地球科学から生命科学までの広範な内容の講義です。理系だけでなく文系の院生も聞きに来てくれます。理系と文系が一緒になって考える、グローバル人材育成とはそういうことなんじゃないかなと考えています。今日はありがとうございました。



# 特集 URA研究支援室

## 異分野混成チームで大学自由競争時代に挑む

URA (University Research Administrator) とは何でしょうか? それは、大学の研究者が研究活動に集中できるように、研究に関わるさまざまな面で高度な支援活動を行うため、学内に整備されつつある新たな職種です。URAの組織や役割は大学によって異なりますが、私たちは筑波大学の本部事務組織の一員として、研究の動向調査、資金調達への支援、国際連携の支援、異分野融合や産学連携の後押しなどを通じ、筑波大学の研究力を最大限に発揮できるよう、全学的レベルの研究支援を開始しています。

近年、大学を取り巻く環境は急速に変わりつつあります。筑波大学は研究大学として世界の大学と競争する上で、教育

と研究の質についても厳しく評価される事になります。また、政府から配分される研究予算のあり方は、ますます競争的なものへとシフトしており、これまでの歴史と実績にあぐらをかいていだけでは、今後の世界の大学との競争に勝てないという厳しい状況が予想されます。従って今後は大学全体として、戦略的に方針をたて、大学間競争に打ち勝つ、という決意が求められています。この様な競争的環境は大学にとって厳しいものですが、一方で創意と努力を成功につなげるチャンスでもあります。私たちURA研究支援室のメンバーは、研究者として、あるいはプロジェクト管理業務等の多様な経験を武器に、異分野混成チームとしてこの仕事に挑んでいます。



### Question

- ① 専門
- ② 最近興味を持っている事
- ③ 筑波大学のココが好き
- ④ 目指すURA像

森本行人さん

①西洋経済史 経済史という学問は、19世紀のヨーロッパで生活水準論争が行われていたのが発祥とされています。20世紀後半になるとその関心はヨーロッパを越えて世界中に広がり、社会学や計量経済史といったさまざまな研究手法が発表されました。中でも私は、初期の研究スタイルでもある生活水準論争の視点から考察しました。電信・電話がなかった時代において、とりわけアメリカの経済発展を少なからず支えた郵便制度に焦点を当て、郵政長官の年次報告書を精査・精読し、いわば情報伝達手段の揺籃期とも言える郵便と経済の発展について研究しました。②4月につくばに引っ越してきたので、休日は街を探索しています。③留学生や研究者がたくさんいるところ ④日本中にURAという職が認知されるような活動を行ってみたいです。

①発生物学 大学(筑波大学卒業生です!)では化学を学んでいましたが、興味の対象が徐々に、化合物がどのように生き物に作用しているのか、ということに移り、最終的には発生物学の研究で博士号を取得しました。研究対象はショウジョウバエで、発生段階にある細胞の挙動をライブイメージングという手法を使って観察していました。1つの細胞でしかなかった受精卵が、さまざまに分化しながら最終的に多細胞からなる1つの生命体として機能している姿にはいまでも心奪われます。このような視点をURAとして生かしていけたらいいな、と思っています。②俳句 ③緑が多く、開かれた総合大学であるところ ④大学で行われている研究の一番の理解者かつサポーターであること。

新道真代さん



杉山梨恵さん



①生物学・医学 大学院では、培養細胞・マウスを用いて、アポトーシス制御機構の解析を行いました。学位取得後アメリカに留学し、分裂酵母を用いたヘテロクロマチン形成機構の解明に取り組みました。その後筑波大学で、分裂酵母を用いた染色体機能制御機構の研究に従事しました。  
 ②パジルの栽培 ③他大学とは異なり、研究分野が多岐にわたっているところ ④研究者の方々に「ありがとうございます」と言っていたりするようなURA

①スポーツ科学、フィジカルフィットネストレーニング、サッカー ②老後まで楽しめる新たな趣味または運動・スポーツを発見する、効率的な睡眠を取って能力を最大限に発揮する ③学内を自転車で移動する人達、緑に囲まれているキャンパス、最近図書館が24時まで開いている ④頭だけではなく、体全身を使い業務ができるURA

安村友紀さん



①専門は植物分子生物学です。ポスドク時代は植物の進化や生長制御メカニズムなどを研究していました。②ここ数年は家庭菜園で野菜を育てることが趣味でした。つくばに来て宿舎に入ってから、ベランダ菜園に挑戦中です。  
 ③自然科学の話は特に好きですが、昔から文学や古代文明、芸術にも興味がありました。筑波大の、幅広い分野で展開している多種多様な研究が私には大変な魅力です。キャンパスが広くて緑が多く、開放的な所も好きです。④筑波大の研究を世界に送り出すための促進剤になれる人

栗原翔吾さん



岡本拓士さん



藤根和穂さん



①博士号取得分野は、古気候・古海洋変動学。環境変動の周期性やメカニズムを考えるのが好きです。米国で「サイエンスビジネス」という考え方を知って以来は、マネジメントや交渉術に興味を持ち、International Business Communicationの修了証を取得しました。②組織心理学は奥が深いですね。つくば周辺は野菜が安く手に入るので、野菜中心料理のレシピを考えるのも楽しみの一つです。③学内の緑の多さと自由な雰囲気。④人と人、組織と組織の間で「インターフェース」として機能できる人間を目指しています。

①(主に海洋の)微生物生態・地質・調査デバイス開発・バイオテクノロジー(でした)。今は科学技術政策論(特に人材育成やシステム改革)です。「論」の方は素人レベルですが、実務中心に頑張っています。②間接経費(オーバーヘッド)の確保。③昔ながらの大学の良さを残しているところと、基礎研究が強く、またそれに対して(比較的かもしれないが)敬意が払われているところです。とはいえ、大学も変わっていかねばなりません。私の仕事上では、「もっと社会・地域・産業貢献を」と言わねばならない場面もありますが、うまくバランスをとっていければと思います。④研究者に最も近い、新しいタイプの大学職員を目指します!

①脳神経科学の数理的研究(理研BSI、CREST、ニューヨーク大 脳神経センター)素粒子論の研究(首都大 理、東大理) ②神楽坂、人形町、芝公園、花和楽の湯、いきものがかり、ストリート系ダンス、クロワッサン、コンテチーズ、生ハム、カフェ、イチジク、ピアノ、リバーサイド、高所、横浜大橋、美瑛、竹富島、ボンビドー、W. Turner、J. Miro、学者の伝記 ③研究学問分野の多様さ、サイエンスシティーの中核にある立地、美しい森と広いキャンパス ④研究者に一番近い事務担当者、catalyst

加藤英之さん



## コンテンポラリーダンスの魅力

コンテンポラリーダンスは1980年代以降に興った流れで、現代アートとともに注目されるようになりました。ただしその定義はまだあいまいで、ルールに縛られない、ポージングなダンスともいえません。極端に言えば、劇場で演じる必要もなく、踊りの経験や技術がなくても構わないわけです。また、科学技術の研究分野とのコラボレーションなど、実験的なチャレンジも可能です。それだけに、ダンサーや振付家の美学や感性が問われます。こういった試みには安心材料がありませんから、観客に受け入れられるときと、そうでないときがあります。しかしそれも承知の上で、従来のダンスのあるべき姿を裏切つて冒険することが、コンテンポラリーダンスの魅力のひとつです。

現在は、ダンスの世界も大きな変化を迎えています。20世紀のアートを築いた巨匠と呼ばれていた先人たちが去り、次の世代に移る過渡期といえます。伝統芸能であっても、例えば邦楽と洋舞などの組み合わせのように、時代にマッチさせようとさまざまな試みを重ねています。こういった「ちよつとずれたこと」を試行錯誤する、その繰り返しでダンスをじわじわと進化させていくのです。

コンテンポラリーダンスもいずれ長い歴史の中で評価される時が来ますが、「21世紀前半は多くの人がダンスを楽しんだ」と言われるように、このフィールドで頑張る人たちが注目されるようになることが大切です。



## 大学とダンス

筑波大学で専門的にダンスを学び、教えるということには大きな意味があります。ただ振り付け通りに踊り、テクニクを競うだけではなく、自分の身体をどのように取り扱うかを考え、他人の身体性との違いを理解する、そういった客観的な視点を持つことは、ダンスに取り組む上で大きな糧になります。また、ダンスを自分の世界のすべてにせず、社会の中のひとつの要素として捉え、その果たすべき役割

を理解することも、ダンサーを目指す人にとって大事な感覚です。

私は大学教員という立場を持つことで、発信力が高まり、学生や後進により多くのチャンスを与えることができるとも考えています。特にコンテンポラリーダンスは、ダンス界全体の中でも小さなうねりに過ぎません。職業にもなりにくいが現状です。私が学内外で行っているさまざまな活動が認められることで、結果的にコンテンポラリーダンスの価値が高まり、後に続く人たちに目指す道が開かれていくよう願っています。

## ダンスの力を証明する

舞台芸術としてのダンスは身体訓練に裏付けられた高度な芸術です。集中力を養い、身体を突き詰め、極限の動きを追求するという、武道にも似た側面もあります。心と身体を結びつけ、ダンサーと観客の間でイメージーションを共有するコミュニケーションであり、娯楽・エンターテインメントの範疇を超えて、観る者の心に訴えかけ、変化のきっかけを与える力を持っています。私はそのことを証明したい。「ダンスには縁がない」と思っている人こそ、劇場に足を運んでみてください。立ち会えて良かった、生きることが愛おしいという感覚にきつと出会えるはずですよ。

# 聴

平山 素子 准教授 (体育系)

## コンテンツポラリィダンス それは知的好奇心を揺さぶる身体の冒険

人は、言葉を持つ以前から、本能的なコミュニケーションの手段として、ダンスでさまざまな表現を行ってきた。それは次第に形を変え、娯楽やフィットネスから芸術作品まで、たくさんの方が楽しみ、競い、創造する現代の文化となっています。コンテンツポラリィダンスの世界で、ダンサー・振付家として幅広く活躍する体育系の平山素子准教授に、ダンスの魅力、そして可能性について語っていただきました。

### 人はなぜ踊るのか

「ダンス」と聞くと、「自分には縁がない」あるいは「体育の授業でやらされた」というような、必ずしもポジティブではない印象を持つ人もいます。けれども、どんな時代・国・民族にも、歌やダンスの文化があります。感謝や祈りを表す、人とつながる、自分を表現する、また最



近では、健康のためにダンスをする人も増えていきます。踊ること、身体で表現することは人間の本能的な欲求なのです。

ダンスとの触れ合いは、自分の中に潜んでいた感覚や感情が引き出されたり、そこから新たな知的好奇心が芽生えるような、豊かな体験へと導いてくれます。人間のコミュニケーションの大部分は、実は言葉ではなくそれ以外の情報によるものだとされています。そういった意味において、ダンスは原始的かつ効果的な意思の伝達方法であり、多様な自由なコミュニケーションを成り立たせることが可能となります。

### 舞台では奇跡が起きる

演劇やオペラなどと同様、ダンスも舞台

芸術のひとつです。時間・空間・動作の連続性の組み合わせで構成され、さらに衣装・照明・音楽・小道具などさまざまなものを駆使して演出されて作品ができあがります。残念ながら物理的に保存することができないため、立ち会う人(観客)がいなくてはダンスという現象が保証されません。舞台芸術は、観客の言説による精神的な繋がりによって成り立つとも言えます。

私たちの身体の状態は日々変化します。これを受け入れながらダンサーは日々身体を整えて準備をします。そして、舞台上で芸術という永遠を手に入れるため、瞬間にすべてを注ぎます。

観客として劇場へ足を運ぶということは、その瞬間を捉えるという代えがたい

ひら やま もと こ  
平山 素子 准教授(体育系)

愛知県出身。5歳よりバレエを始める。筑波大学に進学し、同大学院体育研究科を修了。1999年世界バレエ&モダンダンスコンクールにて、金メダルとニジンスキー賞をダブル受賞(モダンダンス部門)。2005年より本格的に振付家としての活動も始め、新国立劇場などで振付委託作品を発表し、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞などを受賞。音楽家や美術家とのコラボレーション、無重力空間でのダンス実験や、CGを使ったダンス動作の自動振付実験などのプロジェクトにも参加。シンクロナイズドスイミングやフィギュアスケートの日本代表選手などの演技指導も手がける。2002年から筑波大学の教員となる。公式HP <http://www.motokohirayama.com>

体験を求めているといえます。

私のダンス作品の特徴は、物語や感情そのものを説明することではなく、感覚やまわりの情景に訴えることを創造の源としています。そして、身体から発する生命感を余すことなく滲み出させたいと考えています。そして観客一人一人の個人的な記憶や感性を呼び覚まし、変化をもたらすと信じています。



# OBOG

Tsukuba

アテネオリンピックでは日本代表選手団本部ドクターを務め、ロンドンオリンピックでは、レスリング女子48<sup>kg</sup>級小原日登美選手(写真左)の金メダル獲得を支えたスポーツドクター。今回は、医学専門学群の2期生、内田彰子さん(写真右)にお話を伺いました。

## うちだあきこ 内田彰子さん

つくば体力医学研究所 所長

医学博士 / 日本外科学会認定登録医 / 日本体育協会公認スポーツドクター / 日本体育協会公認自転車コーチ / 公益財団法人 日本アンチドーピング機構認定ドーピングコントロールオフィサー / Bridgestone Anchor Cycling Team ドクター

1981年 3月 筑波大学医学専門学群卒業  
1987年 3月 " 附属病院 外科レジデント終了  
1987年 4月 米国イリノイ大学形成外科で臨床研修  
1989年 4月 筑波記念病院形成外科 科長  
1992年 1月 筑波大学臨床医学系外科講師  
2001年 12月 (財)国際科学振興財団 専任研究員  
2004年 4月 日本女子体育大学 健康スポーツ学専攻 助教授  
2004年 8月 アテネオリンピック日本代表選手団本部ドクター  
2007年 4月 つくば体力医学研究所 所長



— 本学の2期生でいらっしゃいます。ご出身が東京の高校ということで、まだ発展途上だったつくばでの一人暮らしは、寂しく感じられたのではありませんか？

子どもの頃から、何でも“初”というのが大好きなので、何もかもが新しいというのがとても嬉しく感じられました。宿舎生活も、自由で、学群を越えたいろいろな人間関係ができて楽しかった。先生方も皆さん単身赴任だったので、自室に招いて下さったり…全体的にアットホームな感じで、寂しさは感じませんでしたね。サークルもたくさんやりました。柔道同好会にゴルフ同好会、茶道部。医学ハンドボール部のマネージャーもやっていて、キャプテンだった夫との出会いもありました。本当に、学生時代にはいい思い出がいっぱいあります。松美池に飛びこんだり、バカなことたくさんやりましたけど…(笑)。

— 充実した学生生活でしたね(笑)。卒業後は、附属病院で外科のレジデントになられました。

筑波大の外科医としては、女性“初”でした。2期生なので、レジデントが2学年分しかいないわけです。どの科も大変でしたが、外科は特に忙しく、女性に務まるか不安がられていました。私のせいで「女の子にはやはり無理」と言われてしまうと困るので、必死でしたね。一番忙しい時期は、すぐ近くにあるレジデント宿舎に帰ることもできなくて、手術室で同僚と雑魚寝の毎日。手術室とICU(集中治療室)と入院患者の病室だけを移動していました。

— 大変な時期はどのくらい続いたのですか？

下の学年のレジデントが入って来るにつれて、だんだん落ち着いていったのだと思いますが、3年くらい経った頃、

ふいに「あれ？暇があるな」って気が付いた感じでしたね。少し余裕ができたので、結婚して1人目の子どもを出産し、産後休暇中に、トライアスロンを始めました。このトライアスロンに夢中になったことが、私の人生を変えることになりました。

— 人生を変えたとは…？

筑波大学トライアスロン部の顧問をやったりしているうちに、トライアスロンの世界選手権や自転車ロードチームの帯同ドクターなどを頼まれるようになり、形成外科からスポーツ医学に転向することになったのです。その後、これも女性“初”だったのですが…アテネオリンピックで、日本代表選手団のドクターを務めました。そして、それがきっかけで、自衛隊体育学校レスリング班から、ロンドン五輪に向けての選手のサポートを頼まれました。



「私のスポーツ医学の原点は自転車ロード競技」と内田先生。  
ロンドン五輪自転車日本代表 別府史之選手と

— ロンドン五輪では、自衛隊体育学校のレスリング班から、女子48<sup>kg</sup>級の小原日登美選手と、男子フリースタイル66<sup>kg</sup>級の米満達弘選手が金メダル、同55<sup>kg</sup>級の湯元進一選手が銅メダルを獲得しました。皆さん、先生がサポートされていたのですか？

はい。我が子のように面倒をみてきた選手たちです。選手たちは非常に無理しているので、生理学の概念を越えているんですよ。レスリングには減量がつきもので、男子選手には5日間で12<sup>kg</sup>落とすというような選手もいます。そういう選手たちは、「減量中は膝がじょりじょりする」と言うんですが、それは、体中の水分がなくなり、関節液も減ってしまっているのです。そういう選手たちに、医学の常識は通じません。一人一人の体力や健康状態を熟知して、生命に危険がおよばないぎりぎりを見極めてサポートしていくという感じでした。

— 小原選手はもともと51<sup>kg</sup>級の選手で、オリンピック種目にその階級がないために、48<sup>kg</sup>級を目指したのですよね？

小原選手のサポートが一番大変でした。2009年の12月に、小原選手から、「先生が面倒みてくれるなら、48<sup>kg</sup>級で復帰したい。何でも言う通りにしますから」と電話がかかってきて、「よししゃー」と引き受けたものの、常識的には不可能なミッションでした。小原選手は、51<sup>kg</sup>級で6回も世界選手権を制覇した実力者ですが、51<sup>kg</sup>級の時ですら減量に苦しんでいたのです。しかも、復帰を決意した時は、引退後1年以上

経ったなまった体で、年齢は29歳、体重は56<sup>kg</sup>くらいありました。

— ただの復帰ではなく、ロンドン五輪で金メダルを獲得するための復帰ですから先生も覚悟が必要でしたね。

年が明けてすぐ、コーチやトレーナーなどと「チーム日登美」を結成し、肉体改造に着手しました。徹底的な食事・サプリメントの指導や貧血治療、筋力をアップして体脂肪だけを落とすトレーニング、カウンセリングなどを同時進行で始めたのです。最初は大変順調で、4月末の全日本選抜選手権と9月の世界選手権で優勝し、早い段階でオリンピック代表に決定しました。でも、それからオリンピックまでが大変。金メダルを期待されすぎて、逃げ場がなかったのでしょう。痩せたり太ったり、精神状態も上がったり下がったり…最後まで、オリンピックのマットに上がるかどうかひやひやで、「メダルなんか取れなくてもいい。マットに上がってさえくれればいいから」と、声を掛け続けていました。

— 小原選手が決勝戦で勝利した時のお気持ちを教えてください。

決勝戦の第1ピリオドを取られた時には、こちらも心臓発作を起こしそうでした(笑)。「チーム日登美」みんなで「なんとかしてくれー」と、手をぎゅっと握り合って、必死で応援していました。勝った瞬間は、感激しました。もう最高でしたね。

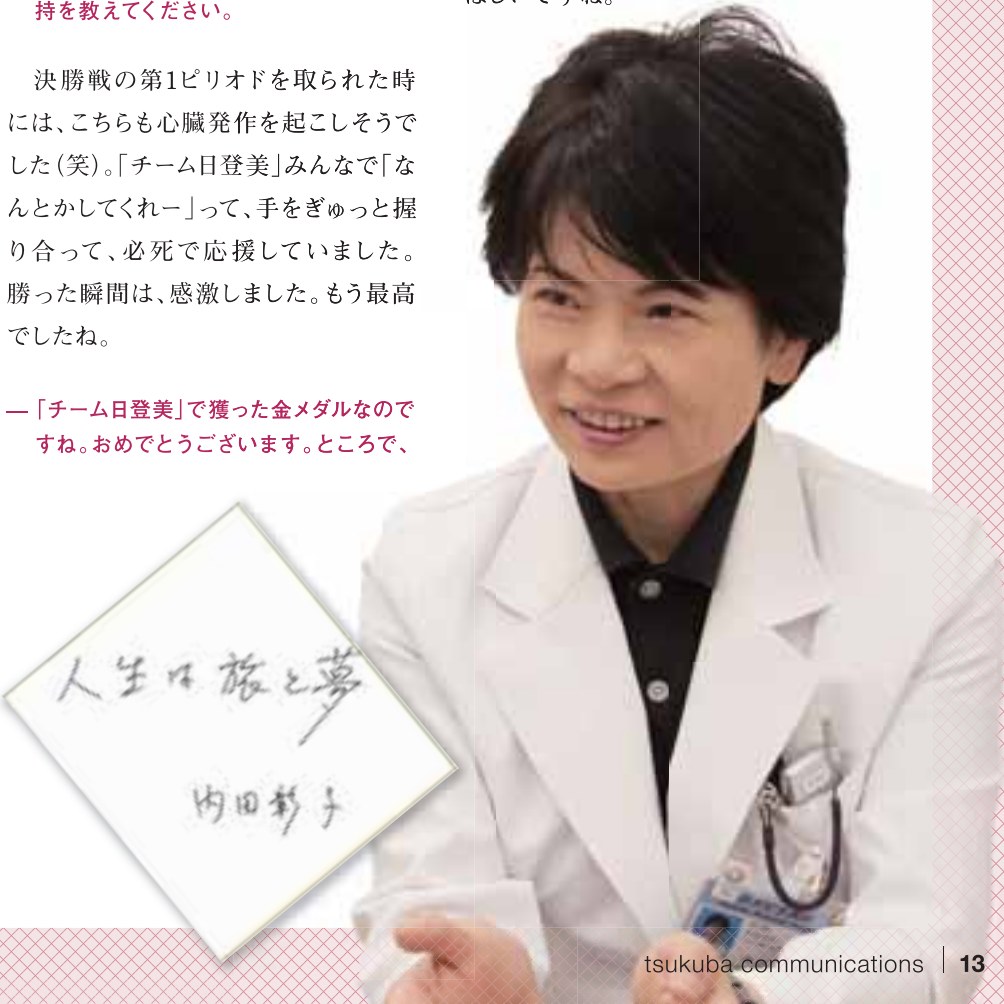
— 「チーム日登美」で獲った金メダルなので、おめでとうございます。ところで、

今後新たに取り組みたいと考えていることはございますか？

スポーツドクターとして、主に、レスリング選手や自転車ロードレーサーのサポートをしてきました。競技ごとの特殊な病気やケガがたくさんありますし、栄養指導もドーピングに注意すべき薬品類も全く違います。競技ごとに、その競技に習熟したスポーツドクターが必要なのです。今までは、自分が担当する選手を一生懸命にサポートし、そのために必要な知識や情報を収集してきました。でもこれからは、今までに得た情報や経験を誰かに引き継いだり、スポーツドクターの存在価値を知らせたりすることにも取り組んでいくつもりです。

— 最後に、本学の学生に一言メッセージをお願いします。

今までにあったいい事も、悪い事も、いろいろな苦労も、振り返って考えると、無駄なことは何一つなかったなと思います。何でも無駄になることはないので、あまり打算的にならないで、いろいろなことに興味を持って挑戦して行ってほしいですね。



つくばキャンパスは、東西約1km、南北約4kmの自然に恵まれた広大なキャンパスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な教育・研究組織がありますが、全てを知ることはなかなかできません。その組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。

# 教育開発国際協力研究センター

Center for Research on International Cooperation in Educational Development

## Introduce

教育開発国際協力研究センター(CRICED)は、教育制度や理数教育、特別支援教育などに関して新興国・途上国の教育開発に資することを目的に、学内共同研究施設として2002年に設立されました。文部科学省が実施する国際協力事業にも日本の拠点センターとして取り組んでおり、特に東南アジア諸国との連携強化を進めています。

佐藤 真理子 センター長



### 日本で唯一の SEAMEO正式メンバー機関

教育開発国際協力研究センター(CRICED)のミッションは、「新興国および途上国が直面している教育開発の解決・改善に資するため、わが国の国際教育協力の枠組みのもとで、研究協力および事業実施を推進する」ことです。人間総合科学研究科の中でも教育学域と障害科学域の両方にまたがっていることから、①教育経営、②算数・数学教育、③特別支援教育、の3つの分野について、それぞれ教員1名を配置し、研究活動を行っています。センターの第2期中期計画(平成22~27年度)では、特に「東南アジア諸国との連携強化」を掲げています。この方針は筑波大学の第2期中期目標にある「国際化戦略や新興国に対する教育研究支援」にも合致するものです。

とりわけ、東南アジア11か国が加盟する「東南アジア教育大臣機構(The

Southeast Asian Ministers of Education Organization, SEAMEO)」との連携はCRICEDが最もアピールしたいポイント。SEAMEOは1965年に発足した国際組織で、域内に19のセンターがあり、教員研修や教材開発などを行っています。日本の文部科学省もオブザーバーとして理事会に出席していますが、筑波大学は2009年から、日本でただ一つの共同機関(Affiliate Member)としてSEAMEOの活動に参画しており、教育分野における東南アジアでのプレゼンスを高めています。

東南アジアでの教育への取り組みは非常に熱心で、2006年の国際物理オリンピックではインドネシアが1位になるなど、実績も上げつつあります。教育研究資金も比較的潤沢に支出しており、日本は必ずしも支援・指導する立場ではなく、対等なパートナーとしてこれらの国々と研究を行っています。佐藤真理子教育開発国際協力研究センター長は、「東南アジア諸国はひとつひとつの国が小さ

く、近隣の中国やインドに対抗するためにも、共同体として国の垣根を越えて人材の活用をすることが不可欠。ですから語学教育など国際化の面では、日本人が考える以上に進んでいます。我々の方が学ぶこともたくさんあります」と、連携の意義を語ります。

現在、SEAMEOとの共同研究として取り組んでいるテーマが「グローバル化による高等教育への影響」。グローバル化が進む中、各国がどのような教育政策を講じているか、それに対応して大学の運営やしきみがどう変化しているか、などについての国際比較を行っています。

### 理数教育・防災教育で 教科書作りをリード

算数・数学教育の領域では、教科書などの教材制作に貢献しています。教科書を作ることができるというのは、その分野の専門家がいるということ。新



# 附属学校の 名物先生登場!

# 10

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に11校の附属学校があり、いずれもそれぞれの分野でわが国の教育をリードしています。そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。

## 今回の先生

附属聴覚特別支援学校

いた ばし やす と  
**板橋 安人** 主幹教諭

Profile

東京生まれ。群馬大学教育学部を卒業、筑波大学大学院教育研究科障害児教育専攻を修了し、現在、附属聴覚特別支援学校主幹教諭。自立活動の「発音・発語」指導を担当、横浜国立大学非常勤講師を併任。博士(教育学、筑波大学)。



小さな机を挟んで2人の生徒と1人の先生。壁には大きな鏡があり、さまざまな小道具や五十音表があふれている。一般的な教室の風景とはずいぶん異なる印象だが、チャイムが鳴ると「起立。これから発音の勉強を始めます。着席」と生徒の一人が号令をかけた。

「発音」の授業では、一つ一つの音を声に出す時の口や舌の動きを理解し、正しく発音する方法を学ぶ。ほぼマンツーマンでの指導だ。互いの距離も近く、相手の口の動きや表情から目が離せない。かなりの集中力を要するが、幼

いころからこういった学習に慣れているせいか、辛そうな雰囲気はない。

この授業では教科書やノートは使わない。代わりに欠かせないのが身振りや小道具類だ。音のイメージを口や舌の動きだけで理解するのは難しい。例えば、「ば」「ば」「ま」は口の動きをいくら見てもその違いはわからない。握った手を勢いよく開くことで「ば」の音のイメージを表す。「ば」の時は手首をだりとして前に動かし、「ま」では握った手を回しながら開く。発音の手がかりとなるこれらの動きは、板橋安人先生が自らいろい

ろな動作の中から探し出したものだ。

文章を話す練習では、手でリズムをとりながら、話すスピードにも注意を払う。

「日本語には日本語らしい音のかたまりや伸ばし方、区切り方などがあると思います。単に発音を真似するのではなく、自然な日本語のリズムを身につけてほしい。だから、ことさらにゆっくり話したりすることはしません」。健聴者の世界でのコミュニケーションを念頭に、指導にあたる。

発音指導で活躍する小道具の一つが「発音棒」。青・赤・黄に塗り分けられた長さ40センチほどの筒状の棒で、青は無声音(s、p、kなど)、赤は母音、黄は鼻から抜ける音(mなど)を表す。真ん中の赤の部分は二重になっていて左右に動くようになっている。これを動かす長さや速さを調節して、子音から母音に移るタイミングを示す。板橋先生の自作で、10年以上も使っているという年季の入った教材だ。「発音棒はもともと3色のチョークで作るものとして知られてい







左から「歯列模型」「発音棒」「S-indicator」



「ば」がうまく発音できると牛乳瓶のふたが裏返る



「ん」の発音にもいろいろな口の動きがある

ますが、チョークだとだんだん減ってしまうので、自分で改良して作りました。健聴者は無意識に発音のコントロールをしています。発音を学ぶためには日本語の音節構造を自覚しなくてはなりません。そのためには視覚的に示すことが大切なんです。他にも、舌の動きを確認するための歯列模型や、破裂音の練習に使う牛乳瓶のふたなど、アイデア満載の教材が、発音の仕組みを理解する手助けになる。

「発音というのは非常に奥が深く、まだまだ未知の部分が多い。それを掘り起こしていくのもこの仕事の魅力です」。板橋先生は、生徒たちの得意な音、苦手な音を調べて、50音の発音のしやすさランキングを作ったり、補聴器の利用と発話明瞭度との関連性を調査するなど、発音に関する研究にも余念がない。その成果に基づいて、より効果的な指導方法を提案する。さらに、生徒一人一人の聴覚レベルや生活環境、発音の癖を把握し、それぞれに適した教え方や学習の道筋を組み立て、その情報をカルテとしてまとめ、保護者とも共有する。自分で鏡を見ながら50音すべての発音の違いを研究し、それをいろいろな年代の生徒にわかりやすく説明できるようにもしている。先生自身は「職人的」と言うが、豊富な経験に加えて発音に対する探求心があるからこそできることだ。

板橋先生はいつも、漫画などのキャラクターもののネクタイをしている。生徒の注目を惹き、コミュニケーションを図るためだ。生徒にとっての「発音」は勉強すべき学校の「教科」の一つ。難しい発音もある。だから教室を出たとたん、発音のことは忘れてしまいがちだ。授業中は「せんせい」と言っても、教室の外では「てんてい」や「へんへい」になってしまう。正しい発音を身につけるためには、常に意識して練習することが重要で、ネクタイも話す頻度を上げる糸口になる。

また語彙の習得も課題だ。例えば、「クモが巣を作る」や「家を作る」でも意味は通じるが、「巣を張る」「家を建てる」というように、その場で使うべき適切な言葉や表現を広げていかなければ、母語としての日本語にならない。語彙は、意識的に勉強して増やすというよりも、日々の周囲とのコミュニケーションから

自然に入ってくるものだ。どの先生も、それぞれの生徒が何に関心があるのかをキャッチし、普段のコミュニケーションのきっかけ作りに工夫を凝らす。そうやって、登校から下校までの間にできるだけたくさん話そう、学校全体でサポートする。

「附属聴覚特別支援学校で培うべきなのは日本語の力。場に応じて、手話や筆談も含めて、どんな方法でコミュニケーションしたらよいかをわかる人を育てたい。そのために、あくまで話し言葉、音声言語をメインに教育しています。話し言葉を拡充して、文字言語を読むときに日本語の音声が頭の中で鳴り響くように、幼稚部から高等部までを通じて、そういう頭を作っていくことがいちばん求められていると思います」。



伊藤 僚幸 副校長

板橋安人先生は、今年で教員生活34年目。聴覚障害教育一筋のベテラン教員です。現在、主幹教諭の仕事の他に、中学部・高等部普通科・高等部専攻科の発音指導を担当しています。発音指導は、聴覚特別支援学校の自立活動の中に位置づけられた授業で、誰もが担当できるものではありません。研究や実践に裏付けられた板橋先生の授業は、指導を受ける子どもたちの

みならず、参観者をも引きつけます。板橋先生の座右の銘は「虚心坦懐」。素直な心で物事にのぞむ姿勢を大切にしたいと常々おっしゃっています。授業はもちろんのこと、他人に対する配慮、自らを律しようとする態度等、さまざまな点で後輩のお手本になっています。板橋先生は、今年も大学での授業、他の聾学校の校内研修会講師、学会発表等で全国を飛び回るはずで

# 日本文化「古武道」の伝承と普及に挑む



気迫のこもった袋竹刀と懐剣の戦い。戦い後の凛としたお辞儀の所作。入学式当日の松美池前、新入生勧誘合戦のざわめきの中で、その空間だけがきりりと引き締まっていた。“鹿島神流”の伝承を目的に活動しているサークル、「鹿島神流武道部」による新歓の演武だ。

この“鹿島神流”は、鹿島神宮ゆかりの古武道の流派。塚原朴伝の鹿島新当流や勝海舟の直心影流と深い関わりがある流派で、大学等の教育・研究機関を中心に活動の場を築いている。本学では、同流派代表者、師範家19代の關文威氏が本学の教授(生物科学)だったことから、開学まもなく同好会として発足、「鹿島神流武道部」となって37年目となる。現顧問は、同氏の教えを受けた免許皆伝の加香孝一郎講師(生命環境系)だ。

現在、部員数は女性4人を含めて20人ほど。試合はなく、学内では新入生歓迎祭や学園祭、学外では神社の奉納演武大会などで演武を行うことが活動のメインである。「中・高と科学部で、全く運動に縁がありませんでしたが、運動未経験者でも気軽に入れました」と語る鈴木大一主将(生命環境学群3年)

のように、新入部員のほとんどは初心者。素手で行う柔術と木刀や袋竹刀を使う剣術の練習から始め、昇段するに従って、護身用の短刀である懐刀



鈴木大一 主将

を用いる懐剣術、長い柄の先に反りのある刀身を装着した薙刀を用いる薙刀術、木製の杖を用いる杖術などに取り組むようになる。

「私は今、下から3つめの段位“初伝”で、基本となる柔術・剣術に加えて、杖術をやっています。好みや得意不得意もあり、1人で全部の武器を使えるようになるのは難しいですね。どれも中心となる原理は同じで、『30センチの懐剣と、2メートルある薙刀が同じように使えるように』と指導されるのですが、まだまだ上手くいきません」と鈴木主将。その奥深さもまた魅力のようで、「続けられる限り一生続けていく」と決めている。

“鹿島神流”は合戦で長い時間戦い続けるため、なるべく力を使わず、最小限の力で相手に打ち勝つ業を伝えていることから、女性や年配者でも力の強い男性に引けをとらない。OB・OGが全ての練習

に自由に参加することができることもあって、卒業後も続ける人が多い。土曜の練習などには毎回5～6人が訪れ、後輩を指導したり、稽古したりするという。



薙刀術

## 夏合宿と演武会

鹿島神流武道連盟の支部は、カリフォルニア大学やジョージア大学などの北米各地や、フィンランド、ドイツ、スロベニア、オランダなどにもある。世界各地の人や日本の他大学の学生などとの交流がさかんなことも同部の魅力だ。

夏には、鹿島神流武道連盟が鹿島神宮の神武殿で開催する合宿に参加する。世界中から集まって来た人たちと3日間にわたって稽古や寝食を共にすることは、武道以外の面でも大変貴重な体験となっている。

また、4月の鹿島御子神社奉納古武道演武大会や6月の鹿島神宮奉納演武



筑波山神社奉納演武より「杖立合」(剣で杖に打ち勝つ技)

などの大きな演武会には、他の古武道の流派も集まるため、ここでもさまざまな交流がある。

こうした演武会では、技を10本ほど入れた3分間くらいの演武を数種披露する。「神社で演武をしていると、外国人観光客などに大変喜ばれます。日本人として、『自分は日本文化を伝承することをやっている』と思えるのは嬉しいことです」

5月18日のスポーツデーでは、陸上競技場で演武と体験教室を実施し、人気を集めて



体験教室

いた。例年、天上大風や雙峰祭などでも演武を披露している。こうした機会に足を運び、皆さんも、ぜひ日本文化に触れてみてほしい。



## Information

前身の師範学校から140年を越える歴史を有し、オリンピックの金メダリストを始め、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会。主な競技成績および今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【つくばスポーツ ONLINE】 <http://www.sports.tsukuba.ac.jp/>  
【筑波大学体育会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

### ラグビー部

■ 第14回東日本大学セブンズラグビーフットボール大会 **優勝** (2連覇)

### 水泳部

■ 第89回日本選手権水泳競技大会

【女子50m背泳ぎ】準優勝 諸貴瑛美(体育3年) ユニバーシアード代表決定

第89回日本学生選手権水泳競技大会競泳競技 9/6～9/8 広島市総合水泳場

### 柔道部

■ 平成25年度全日本柔道選抜体重別選手権大会

【男子73kg級】準優勝 西山雄希(体育4年)

■ 柔道ワールドマスターズ2013(ロシア・チュメニ)

【女子48<sup>kg</sup>級】**優勝** 遠藤宏美(体育3年)

■ 平成25年度関東学生柔道優勝大会 **男子 優勝**

平成25年度関東学生柔道体重別選手権大会 8/31～9/1 埼玉県立武道館

### テニス部

■ 平成25年度関東学生テニストーナメント大会

【女子シングルス】準優勝 菅村恵里香(体育3年)

平成25年度全日本学生テニス選手権大会 8/17～27 岐阜メモリアルセンター

### ハンドボール部

■ 関東学生ハンドボール連盟2013春季リーグ戦

【男子1部】3位 【女子1部】3位

【男子】[優秀選手賞]八巻雄一(体育4年) [特別賞]加藤芳規(体育3年)

【女子】[優秀選手賞]網谷涼子(体育4年) [特別賞]安倍千夏(体育4年)

### ライフセービング部

■ 第26回全日本ライフセービングブル競技選手権 **優勝**

第39回全日本ライフセービング選手権東日本予選 9/15～16 御宿海岸

### 陸上競技部

■ 第92回関東学生陸上競技対校選手権大会

【女子1部】**総合優勝(21年連続23回目)** 【女子2部、男子3部】**優勝** 【男子1部】3位 **優勝者**

男子1部 / 【走高跳】戸邊直人(体育4年) 【三段跳】米澤宏明(体育3年)

男子3部(院生) / 【110mH】大室秀樹(院1年) **大会新記録**

【3000mSC】丹治史弥(院2年) 【走高跳】衛藤昂(院1年) **大会新記録**

【三段跳】松下翔一(院2年) 【ハンマー投】小林龍太(院2年) 【円盤投】前田奎(院1年)

女子1部 / 【100mH】相馬絵里子(体育4年) 【800m】真下まなみ(体育4年)

【円盤投】糸満みや(体育4年) 【ハンマー投】勝山眸美(体育1年) 【やり投】久世生宝(体育1年)

女子2部 / 【100m】中野瞳(院1年) 【400m】松田絵梨(院1年) **大会新記録**

【1500m】中村真悠子(院1年) 【走幅跳】中野瞳(院1年) 【円盤投】高橋亜弓(院2年)

第82回日本学生陸上競技対校選手権大会 9/6～9/8 国立競技場

第19回関東大学女子駅伝対校選手権大会 9/29 千葉ニュータウン

### ダンス部

第26回全日本高校・大学ダンスフェスティバル 8/7～10 神戸市民ホール

### 弓道部

第61回全日本学生弓道選手権大会 8/20～22 日本武道館

### 体操競技部

第67回全日本学生体操競技選手権大会 8/30～9/1 北九州市総合体育館



## 混声合唱団 詩と音楽の融合をテーマに

開学してすぐに創設された「混声合唱団」。メンバーは、現在約40人で、顧問は同団OBの山岡裕一教授(生命環境系)。プロの指揮者やボイストレーナーの指導を受ける本格的な活動をしている。

### 「定期演奏会」を目指して

「混声合唱団」最大の目標は、年1回12月に開催される「定期演奏会」。例年、4つのステージから構成されていて、第1、第2ステージでは、2人の学生指揮者がそれぞれ指揮をする。曲目は、団員から歌いたい組曲を募集し、意見を出し合って決める。そして、

第3、第4ステージでは、プロの指揮者である同サークルの常任指揮者、鈴木茂明氏がタクトを振る。同氏は、ドイツリート(ドイツ歌曲)の専門家であり、作曲家・高田三郎氏の弟子でもあるため、第3ステージはドイツリート、第4ステージは高田氏の曲を披露することが多い。



大学から合唱を始めた部員が約半数を占めるが、パートリーダーの指導によるボイストレーニングに加え、プロのボイストレーナーから月1回1人20分ほど個人レッスンも受けられるので、12月には、全員で楽しく合唱できるようになる。

団長の山室由美子さん(人文学類3年)は、「ボイストレーナーの先生から個人単位で指導していただくと、みんなどんどん変わっていきます。私は経験者ですが、高校時代よりずっと歌えるようになりました。先生がアドバイスしてくださって、それを意識してやった瞬間、自分の中でも聞こえ方がすごく

### Information

筑波大学には、約40の文化系サークルが所属する「文化系サークル連合会(文サ連)」と、約30の芸術系サークルが所属する「芸術系サークル連合会(芸サ連)」という、大学公認の学生組織があります。このコーナーでは、こうした文化系・芸術系サークルによる公演や、学園祭などのイベント情報、各種表彰・コンテスト結果などをお知らせします。(詳細は下記ホームページをご参照ください)

【文化系サークル連合会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

【芸術系サークル連合会】 <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>



変わることがあります。そういう時はとっても嬉しいですね」と、その喜びが伝わってくるような笑顔で語ってくれた。

同団のテーマは、「詩と音楽の融合」。「合唱にあって、他の音楽にないのが言葉。その言葉を大切に歌っている」という。6月の茨城県合唱祭や10月のオータムコンサートなどで中間発表をしながら、「定期演奏会」までに仕上げていく。

次の第38回定期演奏会は、12月15日に、ノバホールにて開催予定。混声合唱曲集「木とともに人とともに」(作曲:三善晃・作詩:谷川俊太郎)や、混声合唱組曲「内なる遠さ」(作曲:高田三郎・作詩:高野喜久雄)などに取り組んでいる。

### 楽しい団内イベントもいっぱい!

同団の活動は、「定期演奏会」に向かっただけでなく、一直線…というわけでもない。団員が楽しみにしているイベントの1つが、「アンサンブル大会」。春と夏の年2回、団内で8人くらいのグループを作って、好きな歌を歌う。グループの作り方は、同学年で組んだ

り、その曲を歌いたい人たちが組んだりときまどまで、5~6つのグループに参加する人もある。ダンスをするグループもあるなど、何でもありのお楽しみ団内発表会だ。

また、3月には茨城大学との交歓会がある。一年交代で互いの大学に招き、歌を披露し合い、一緒に練習やレクリエーションをして、夜は、団員のアパート等に分散して泊まる。他大の学生と深く交流できる、楽しくて貴重な機会だ。

「混声内部活動」なるものもあり、スポーツデーには、毎年「混声ソフトボー

ル部」が参加する。その他にもその場の勢いでいろいろな「部」が誕生し、誰かの家に集まってそばを食べる「混声そば部」や映画を一緒に観る「混声映画部」などもあるらしい。

「とても仲がいいサークルです。ハーモニー的な完成というのは、まだまだだと思いますが、ハーモニーの前にある『連帯感』は作れていると思います」という山室さんの言葉から、同団の雰囲気の良いところがわかると同時に、完成度の高い「定期演奏会」を目指して取り組む厳しい姿勢も感じられた。



雙峰祭恒例 歌声喫茶

#### ピアノ同好会

##### サマーコンサート

7/19(場所/ノバ小ホール) 18時~

#### つくばフォーク村

##### サマフェス

8/30、31(場所/松美池前)

#### 歌留多部

##### 全国職域学生歌留多大会

8/25(場所/江戸川区スポーツセンター)

#### 管弦楽団

##### 第74回定期演奏会

9/25(場所/ノバホール)夜公演

#### つくば鳥人間の会

##### 第36回鳥人間コンテスト選手権大会

7/27~28

(場所/滋賀県彦根市松原水泳場 琵琶湖東岸)

#### アカペラサークル Doo-Wop

##### Summer Live 2013「Acappella 納涼祭」

7/15(場所/大学会館前芝)



アリゲーター



ブッシュガーデンズ



サザンモストポイント



ジャクソンビル

リダキーズ諸島の周りは、サンゴ礁があり、良いダイビングスポットです。この諸島の南端のキーウエスト島にも行ってきました。ここには、アメリカ最南端を示す碑(サザンモストポイント)が建っています。

### なんといつてもアトラクション!

フロリダ州には、オーランドを中心に20以上のテーマパークがあります。帰省する度に遊びに行くので、ほとんどのアトラクションを体験しました。

一番人気があるのは、やはり、4つのディズニーパークと2つのディズニーマニアパークなどがある世界最大のアミューズメントリゾート、「ウォルト・ディズニーマールド・リゾート」です。私が特に気に入ったのは、近未来な感じの「エプコット」。アトラクションが多く、中身も充実していて、順番待ちの列も他のディズニーマニアパークより早く進む感じでした。

「ケネディ宇宙センター」では、本物のスペースシャトルの中に入れて、感動しました。

遊園地と動物園が併設されている「ブッシュガーデンズ」の、高さや長さが世界一というダイビングコースターや、200万匹のアリゲーターがいる「エバングレウス国立公園」の広い湿地帯を、ホバークラフトでクルーズするツアーもお薦めです。

### 楽しみはフロリダバーベキュー

フロリダに帰る時に、一番楽しみにしている食べ物、フロリダバーベキューです。

小さい時に過ごしたブラジルのバーベキューは、牛肉などの肉がメインでした。日本やアメリカでもフロリダ以外ではそうです。でも、フロリダのバーベキューは、フロリダロブスターやシユリンプ、イカ、コンク貝などの新鮮なシーフードがメインで、とてもヘルシーです。

8月から3月にかけて漁が解禁となるフロリダロブスターは、ロブスターという名前がついているのに、はさみが無いのが特徴。甘く、身がプリプリしていて、塩やスパイスでシンプルに Grill するだけでとてもおいしいです。

### 「陽光の州」は年間降雨量一位

フロリダ州は、「Sunshine State (陽光の州)」と呼ばれていて、明るくカラッとしているイメージがありますが、春から秋にかけて雷雨がよく発生するので、アメリカで一番年間降雨量が多い州です。午前中はよく晴れていても、午後になると天気急変しますし、台風や竜巻も多いですね。

とはいえ、一年中暖かく、暮らしやすいところなので、アメリカ人がリタイア後に住む場所として人気があります。フロリダの人たちは解放的で、他から来た人を温かく受け入れる雰囲気があるので、両親も引越してきてすぐに馴染めたようです。

観光に行くなら、アメリカの夏休み期間(6月第2週〜8月第3週頃)はどれも混雑するので、避けた方がいいかもしれません。気候的には一年中が観光シーズンといえるでしょう。ぜひ、遊びに行ってみてください。



ケネディ宇宙センター



ケネディ宇宙センター



ディズニー「エプコット」

# Homeland

本学には、80を超える国から、約2千人の留学生が訪れています。  
このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、  
食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。

アメリカ  
フロリダ州

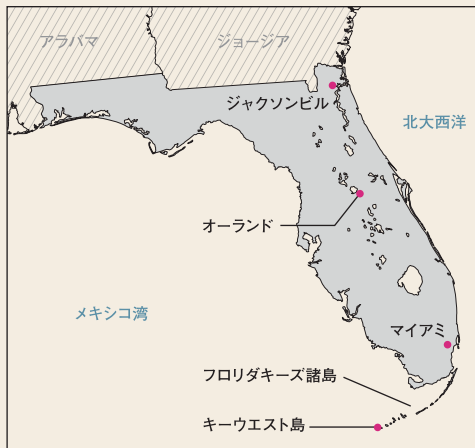


アレクサンデル イアノフ

Alexsandr Ianov さん

所属:システム情報工学研究科 知能機能システム専攻  
博士後期2年 山海研究室

趣味:マラソン



## 家から10分のビーチが最高

両親が住んでいるフロリダ州デュバル郡のジャクソンビルは、フロリダで一番大きい都市。商業ビルが建ち並ぶ都会ですが、自宅から10分ほど歩くと、白い砂の美しいビーチと遠浅の海が広がっています。

フロリダ州は半島にあるので、海岸線が1900<sup>キロ</sup>もあります。日本ではマイアミビーチが有名ですが、東側のビーチはどこも同じような雰囲気。マイアミまで行かなくても、近くのビーチでリゾート気分を充分味わえます。

フロリダの海では、日本の海のように、クラグに刺されることはほとんどありません。写真にあるように(※右下)、サメがたまに現れますが、常に追跡・監視しているので、サメ警報を気にかけていけば大丈夫です。

西側の海岸は、東側の海岸よりワイルドな感じ。半島の先端から南西にのびるフロ

リアノフさんが来日して6カ月後、ご両親がブラジルからアメリカ・フロリダ州に移住されたため、今回は、「帰省する度に旅行をしてどこよりも詳しくなった」というフロリダ州についてお話していただきました。

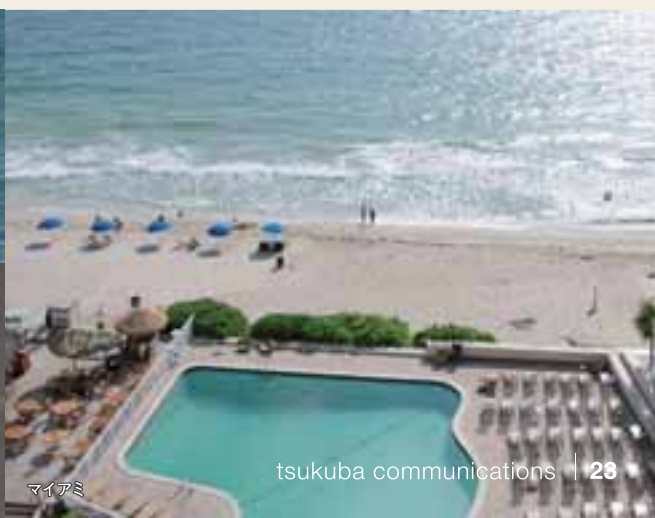
山海教授の下で研究をしています。



デュバル群庁舎



※サメ



マイアミ

## TOPICS



### チュニジア共和国大統領特別講演会を開催

6月3日、チュニジア共和国のモハメド・モンセフ・マルズーキ大統領(H.E. Dr. Mohamed Moncef Marzouki)による特別講演会が、本学東京キャンパス文京校舎で開催されました。

学長らとの懇談の後に開かれた特別講演会には、本学の学生・教職員の他、他大学の学生・教職員、チュニジアに関係する研究機関、民間企業の方々など約260人が参加し、マルズーキ大統領による「自由と尊厳のための民衆革命」後のチュニジアの現状と展望についての講義に熱心に耳を傾けました。

講演終了後、チュニジア共和国と本学の教育研究の交流において多大な貢献されたマルズーキ大統領に、本学名誉博士号の学位が授与されました。

本学は、2004年に学内に北アフリカ研究センターを設置し、2006年にはチュニス市内のチュニジア国立農業学院内に北アフリカ・地中海事務所を開所するなど、チュニジアをはじめ

北アフリカ諸国の大学・研究機関との国際共同研究や学生交流を戦略的に推進しています。



### 義家文部科学大臣政務官が法科大学院を視察

5月21日、義家弘介文部科学大臣政務官は、法科大学院の現状を視察するため、常盤豊大臣官房審議官(高等教育局担当)、内藤敏也専門教育課長とともに本学東京キャンパス文京校舎を訪問されました。

吉川晃理事・副学長、池田雅則ビジネス科学研究科長からの概要説明、次

いで大塚章男法曹専攻長から法科大学院の現状や修学支援などについての説明が行われました。

学生との懇談では、義家文部科学大臣政務官から、法曹を志望し法科大学院に入学した動機や、仕事と学業の両立でどのようにして集中力を維持しているのか、法科大学院で学んだこと

が仕事に役立っているかなどの質問があり、引き続き、法科大学院担当の教員と「社会人の学生を対象とした教育の工夫」や「予備試験制度」、「法曹養成制度」等についての意見交換が行われました。





## 術中MRI手術室プレス見学会を実施

5月22日、附属病院けやきプラザにおいて、術中MRI手術室プレス見学会「筑波大学附属病院に導入した国内初の天井懸架移動式高磁場術中MRI手術室『VISIUS Surgical Theatre®』—導入による脳外科手術の成果について併せて解説—」が附属病院およびイムリス株式会社の共催で行われました。

見学会では、五十嵐徹也附属病院長の挨拶の後、山岡保人イムリス株式会社代表取締役による高磁場術中MRI手術室『VISIUS Surgical Theatre®』の紹介、松村

明教授及び阿久津博義講師による講演「脳外科手術における天井懸架移動式高磁場術中MRI手術システムの意義と成果」が行われ、その後、

参加した25人の報道関係者は手術着に着替え、術中MRI手術室『VISIUS Surgical Theatre®』の内部を見学しました。



## 「筑波みらいの会」を開催

5月26日、「筑波みらいの会」が、本学東京キャンパス文京校舎で開催されました。この会は、本学出身で経営者としてご活躍中の方々により、昨年5月に設立され、第3回となる今回、「筑波みらいの会」と命名されたものです。

「筑波みらいの会」は、「会員同士が連携・交流すること」「会員から大学及び学生

に対して貢献・支援・連携すること」「大学の成果・情報を会員に提供すること」という3つの柱を設立の趣旨・目的としています。

会長に就任された久良木博史氏(比較文化学類卒:セイコークロック株式会社代表取締役)から、「この会は、会員相互の意見交換の場として活用し、活動アイデアを募集して実行するもので

す。学生・卒業生・大学の三位一体で発展できる会とするため、ご協力お願いします」との挨拶がありました。

会場を移して行われた懇親会では、新会員の方の挨拶などがあった他、会場のいたるところで会員間や会員と本職員等との交流が行なわれ、盛況のうちに散会となりました。



## 国際植物の日「筑波大学みどり散歩」を開催

国際植物の日の5月18日、本学では「筑波大学みどり散歩：食糧と彩りと幸せを運ぶ～植物はわたしたちの生命を支えます」を開催しました。

当日は好天に恵まれ、子供から老年寄りまで多くの方々が来学しました。本学の最先端の植物研究に関する展示・講演をはじめ、つくば市内の企業などの協力によるチョコレート製

造の実演、障がい者が活躍する農場の紹介などが行われました。また、本学構内の植物ガイドツアーや、農林技術センターによる農作物の直売、筑波

実験植物園とのコラボ企画「サイエンスカフェ～生物多様性と私たち～」など、屋外でのイベントも楽しみました。



## 科学技術週間イベント「キッズ・ユニバーシティ」を開催

4月20日、本学の教室、研究室などを会場として、科学技術週間のイベント「キッズ・ユニバーシティ」を開催しました。本イベントは「科学の面白さ

や大学の魅力を体験してもらうこと」を目的とし、特別授業、科学実験、体験教室、観察ツアー等を織り交ぜて行いました。当日は真冬並みの寒さに

なったにもかかわらず、数多くの子どもたちや保護者が訪れ、科学の面白さを満喫しました。



小林正美准教授(数理物質系)による「面白不思議科学実験工作隊」

## 「筑波大学と日本スポーツ振興センターとの連携及び協力」に関する締結調印式

6月11日、本学は、独立行政法人日本スポーツ振興センターと連携及び協力に関する協定を締結しました。

本学から永田恭介学長、日本スポーツ振興センターから河野一郎理事長が出席。両者で我が国のスポーツ推進とスポーツ分野における教育研究を推進することや、スポーツにおける好循環のために先導的な役割を果たしていくことを確認しました。

永田学長は、「立場の異なる二つの組織が連携することが重要である。本学は、前身の東京高等師範学校からの体育・スポーツ分野の伝統を有するとともに、医学、理学、工学、人文社会学など幅広い専門分野を有する総合大学の強みを生かし、さらなる協業の可能性を追求していきたい」と述べました。

河野理事長からは、「スポーツを介した

国際貢献と開発が重要となってきている。筑波大学が研究開発を進めていくなかで、本センターの有するフィールドやネットワークは重要であると考え、協力して

いきたい。そして、両者で連携して、スポーツ政策のプラットフォームを作り、国に働きかけていきたい」との発言がありました。



## キャンパスツアーへのセグウェイ導入について

本学では、高校生を主な対象としたキャンパスツアーを実施しています。今年度から、希望を申し出た高校生に対し、キャンパスツアーの中でセグウェイの体験乗車を実施することにいたしました。

6月12日、キャンパスツアーで来学した埼玉県立春日部高等学校の生徒を対象に、本学石の広場にて、1回目のセグウェイ乗車体験が実施されました。

始めは緊張した表情を浮かべていた生徒たちも、慣れてくると笑顔も見られるようになり、セグウェイ独特の乗り心地を楽しみました。

大学を見学する高校生に通年でセグウェイ体験乗車の機会を設定することは大学では初めてです。今後、キャン

パスツアー参加者の増員が見込まれると同時に、本学を高校生に知ってもらえるチャンスがより一層拡大すると期待しています。



## 地域貢献



### 井守も棲める谷津田・里山環境の復元 および維持管理ネットワークの構築

里山に囲まれた谷合いの湿田を谷津田といいます。谷津田は、田が小さく不定形で農業機械が使いにくいことから、多くが荒れた耕作放棄地となり、産業廃棄物の不法投棄などの危険にさらされています。

こうした場所の1つだった取手市の谷津田・里山3haを『いもりの里』と名付け、その復元・維持に貢献しているのが、「井守も棲める谷津田・里山環境の復元および維持管理ネットワークの構築」という本学の社会貢献プロジェクト活動です。

イモリという貴重な研究資源の枯渇に危機感をもった千葉親文准教授(生命環境系)や丸尾文昭助教(同)らは、2009年、地域住民らと、乾燥・陸地化していた谷津田を、イモリが棲んでいた頃の自然環境に復元する取組みに着手しました。ヤナギやイバラを根こそぎ掘り起こし、昭和40年代の水田や用水路を再現したのです。できあがった水田では、『いもりの里フレンドクラブ』会員(近隣および都心の親子)が米作りを体験しながら、周辺の環

境を整えていきました。そして、自然が復元してきた2010年11月、かつてこの地に生息していた種に遺伝的に近いアカハラ



イモリ※の成体約1000匹を放流。2012年6月の調査では、体長10㎝以上のイモリ100匹超が確認され、イモリが棲める環境になってきたことが証明されました。

この活動の特長は、教員と学生、取手市行政、地域住民、『いもりの里フレンドクラブ』会員の見事な“ネットワーク”で自然環境保護に取り組み、生命環境教育やイモリの養殖につなげていることです。

「地域住民の方々は良質な自然環境を取り戻し、取手市は『いもりの里』を市のモデル地区としてさまざまな形でアピールすることで、地域活性に役立っています。『いもりの里フレンドクラブ』会員には自然や生物、農業などの学びの場であり、私たちには、イモリを確保するため

の野外養殖地です。このように、みんなにメリットがあり、楽しく参加できるネットワークを作ることが、『いもりの里』を末永く維持・管理することにつながると考えています」と千葉准教授。



4月29日に開かれたイベント「どろんこ運動会」では、『いもりの里フレンドクラブ』の子どもたちが、田んぼの中で玉転がしなどを楽しみました。この「泥んこ運動会」、実は、イモリを傷つけない、環境に優しい田んぼの代掻きなのです。

こうしたイベントは年12回ほどあり、「堅苦しくならず、楽しんだ結果が、環境保護や環境教育につながるように工夫している」(丸尾助教)といえます。

『フレンドクラブ』の会員数は増え続け、現在240名以上が登録。イベントには、毎回、100人以上の親子連れが集まり、本学教員や学生10～20名の指導や、地域住民のサポートを得ながら楽しく活動します。

また、同活動に賛同した『いもりの里』の周辺農家は、環境に優しい農業に取り組むようになり、昨年には、茨城エコ農産物認証を得たイモリマークのブランド米「取手いもりの里米」を発売しました。この他、取手市近隣の市町村や全国の谷津田・里山環境団体などからも同活動が注目されており、ネットワークの輪は広がる一方。今後ますますの発展が期待されます。

#### ※アカハライモリ

日本固有のイモリ。谷津田に生きる両生類の代表で、生命科学の教育や再生医療での実験動物として極めて有用だが、生息数が減少しており、2006年に準絶滅危惧種として登録された。

『いもりの里』のイモリの野外養殖は、世界初の試みとして、イモリ研究の分野においても国際的に高い評価を得ており、2011年には、アカハライモリ・ストックセンターとして、「Nature Protocols」に掲載された。

「どろんこ運動会」の後はドラム缶風呂でさっぱり



本学の教員・学生スタッフ  
前列左端が千葉准教授、後列左から2人目が丸尾助教



# 受賞 Awards and Prizes

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
第4回表象文化論学会 学会賞 奨励賞	御園生涼子准教授(人文社会系)	_____
第69回日本放射線技術学会総会学術大会(銀賞) (銅賞)	高田健太助教(医学医療系) 鈴木慶史診療放射線技師(附属病院 放射線部)	_____
平成25年度文部科学大臣表彰若手科学者賞	二瓶雅之准教授(数理工学系)	_____
新化学技術推進協会 第2回新化学技術研究奨励賞	沓村憲樹准教授(国際統合睡眠医学研究機構)	_____
2012年度 情報処理学会 功績賞	岡本栄司教授(システム情報系)	_____
人工知能学会 研究会優秀賞	林勇吾特任助教(図書館情報メディア系)	_____
日本医療機器学会 平成24年度著述賞	磯辺智範准教授(医学医療系)	_____
経営情報学会 関西支部 第8回学生研究論文発表会 「優秀論文賞」「最優秀発表賞」	大江秋津博士特別研究員(システム情報系)	金澤雄一郎教授(システム情報系) [主査] 渡邊真一郎教授(システム情報系)
The HRI 2013 Best Video Award 1st Prize	川野辺裕明 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻 博士前期2年)	葛岡英明教授(システム情報系)
日本機械学会関東支部関東学生会 第52回学生会卒業研究発表講演会 Best Presentation Award	佐藤高亮(理工学群 工学システム学類 4年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子講師(システム情報系)
日本機械学会関東支部 第19期総会講演会 若手優秀講演賞	下西国治/三鬼陽美 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期1年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子講師(システム情報系)
日本化学会第93春季年会 学生講演賞	市塚知宏(数理工学系 化学専攻 博士後期2年)	市川淳士教授(数理工学系)
日本原子力学会北関東支部 平成25年度若手研究者発表会 優秀発表賞	堀口直樹 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期2年)	吉田啓之教授(連携大学院) 阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子講師(システム情報系)
第31回社会言語科学会研究大会発表賞	居關友里子 (人文社会科学研究科 文芸・言語専攻 一貫制博士4年)	澤田浩子講師(人文社会系)
情報知識学会 第21回(2013年度)年次大会 学生奨励賞	堀智彰 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士前期1年)	宇陀則彦准教授 (図書館情報メディア系)
日本太陽エネルギー学会2012年度奨励賞(学生部門)	関口大介 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期2年)	岡島敬一准教授 (システム情報系)
日本組織培養学会第86回大会ベストポスター賞	王淋渤(生命環境科学研究科 生物機能科学専攻 博士後期2年)	張振亜教授(生命環境系)

※所属、職名、学年は受賞時

附属高等学校  
養護教諭  
相樂直子さん



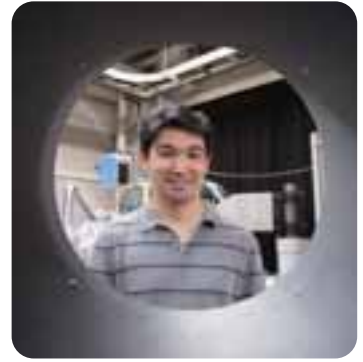
アウトドア派です。学生のときから、山、海、川、と自然を求めて渡り歩いていました。トレッキングでみた新緑の鮮やかさ、山頂からのご来光、ダイビングでみた魚の大群・・・どれも忘れられない光景です。

最近では、遠出ができないため近場でのバーベキューというコースが多いかな。心地よい風に吹かれながら、冷えたビールを飲むのもこれまた最高です。

昨年、久々にキャンプ用品を一新しました。今年の夏はファミリーキャンプに行き、家族で大自然の開放感を満喫したいな・・・と目論んでいます。

今回は、附属中学校 養護教諭の近藤とも子さんです。  
「中学生の成長をサポートされる様子から多くのことを学ばせていただいています。養護教諭として尊敬する先生です」

数理物質系准教授  
柳原英人さん



訳あって昨年から週3日つくばから霞ヶ関に通っています。生まれて初めての電車通勤ですが、千代田線の混雑ぶりには毎度びっくりしています。最近では通勤時間も楽しむべく、たびたび朝っぱらから寄り道をして浅草経由で銀座線に乗って虎ノ門まで通っています。時間は余計にかかりますが、TX浅草駅から銀座線まで、行き交う人もまだ少ない朝の時間に、スカイツリーを見上げながら歩く浅草寺や、開店準備をしている仲見世通りなど、昼間の観光地とは違う風景を満喫しています。電車通勤も残り半年のはずなので、そろそろ帰りの道草も楽しみたいと思っています。

今回は、教育推進部社会連携課の山田なほみさんです。  
「先日、来学した女子高校生たちに模擬講義をするときに大変お世話になりました。あー楽しかった。また是非やらせてください！」

リ シ ー イ ッ セ イ



学生部学生生活課  
菊池信孝さん



筆者 前列左側

五十の手習いよろしく、蕎麦打ちを始めました。最初から、東京の老舗、上野藪蕎麦店主が会長をされる素人の会に入会、伝統の江戸蕎麦の技法を練習(研鑽)しています。勝手な作法はご法度、厳しい面もありますが、一つ一つの工程に奥深さを感じます。江戸蕎麦の長さは21cm、厚みと幅は1.5ミリが理想、これは箸の手操りに丁度良い寸法だそうです。蕎麦粉は水を吸いにくい性質で、どの粉でも上手に打つことは難しいですが、職場の方々には失敗作でも快く試食していただいたり、同期の仲間たちとは蕎麦打ち会を催すなど、楽しい機会が増えました。最後に、蕎麦湯はルチン豊富、麦焼酎と相性良いのでお試しあれ。

今回は、連携・渉外室の古山陽一さんです。  
「附属学校教育局在職中には、いつも一緒に常磐線で帰りました。今でも飲み友達で、あの頃の話が弾んでいます」

研究推進部  
産学連携課  
柿本茂八さん



約10年前にログハウスを建てました。フィンランドから工事ミスも含めた大量のログ材がシベリア経由でつくば市へ到着しました。完成後にログ材が残りましたが、このログ材は廃棄物として処理されるとのことでした。もったいなく思い、それまで触ったこともない電動工具を購入して、怪我のないことを最重要課題として日曜大工を開始しました。これまで、屋内の机、整理棚また庭のパーゴラ、バラ棚、塀等を作成してきました。最近では、木材以外にもモルタル、レンガを使って、レンガ舗装、ジェラストーン張りにも挑戦しています。週末限定のDIYではありますが、ログハウスもその庭も少しずつ進化中です。

今回は、生命環境系教授の磯田博子さんです。  
「北アフリカだけでなく全世界の植物有効成分に情熱をそそぐロマンあふれる国際人です」

附属桐が丘特別支援学校教諭  
新田賢司さん



昨年の健康診断でウエスト周り「要注意」との診断を受けて、何か運動をしなければと思っていたところ、勤務時間後に体育館でフットサルをやっているということを知り、参加させてもらうことにしました。練習開始時は、会話や笑い声もあり楽しくボールを蹴っていますが、ゲームが始まると一気にヒートアップ。数分間のゲームを終えると汗だくになってしまいます。そんな真剣さもあり、昨年度末にはこのメンバーで男女混合のフットサル大会に出場してしまいました。目標にしていた1勝を達成し、「今年は優勝!」と新たな目標を掲げて練習に励んでいます。この調子で今年の健康診断を乗り越えたいと思います。



次回は、附属久里浜特別支援学校教諭の後藤健さんです。  
「千葉県からの交流人事仲間です。頼りがいのある爽やかな方です。新任研修会ではお世話になりました」

数理物質系准教授  
岡田晋さん



ほんの腰掛けのつもりでつくばの地を踏んで、15年が経ってしまいました。初めてのつくばは、都内有数のお洒落な駅のすぐ隣の駅にある、灰色の工業大学出身の自称都会人(都怪人?)からすると、素敵にあか抜けてなく、何とも微妙な感じを受けました。そう、例えて言うならば、生卵に間違っソースをかけたような感じでした。その後、TXが開通し、生卵ソース的な微妙感のないごく普通の町になったように思えます。そんな中、この15年間変わらずに、常に私の側にいてくれたのが大学のプールでした。毎日の水泳がエネルギーの消費と補給となっています。

次回は、人文社会系助教の山田亨さんです。  
「非常に正しい乗車姿勢で自転車を操り構内を軽やかに駆抜け、プールに出没する山田亨先生です」

T S U K U B A C O M M U N I C A T I O N

学生部就職課  
菅野昭さん



2人の息子が近隣のリトルリーグチームに所属しており、毎週末、一緒にお弁当を持って野球をし、汗を流しています。私自身は、高校3年生の夏、全国高等学校野球選手権大会地区予選(茨城県)で主将として活躍しましたが、決勝で延長サヨナラ逆転負けし、甲子園の夢をあと一歩で断られました。筑波大学に就職し、職員野球部では、ピッチャーで20年以上投げてきましたが、最近はその子どもの野球が優先となっています。周りの諸先輩には「今が一番いい時だね」と言われるものの、休む暇もなく親子で奮闘中です。また、子どもたちは、週一回、社会貢献事業の一環で、硬式野球部が本学野球場で開催している野球教室にお世話になっております。野球を通して、道徳心を持った、挨拶のできる礼儀正しい大人に育ててほしいと願っています。

次回は、体育系准教授の鍋山隆弘さんです。  
「体育センターに所属していた際には、我が家のこたつで朝まで焼酎を飲んでいました。公私共に仲良くしていただいている文武両道の剣道部顧問です」

生命環境エリア支援室  
田中慶介さん



中学、高校と続けていたテニスを2年前に職員となったことをきっかけに再開しました。毎週土曜日にコートを借りて二回りも年の離れた先輩方と一緒に、高校時代のシャープだった体型からは見る影もない丸い体を必死に動かしてボールを追いかけています(え? 足が動いてない?)。さて、そんな私ですが、つくば市の大学・研究機関等が集まり年2回開催されるテニス大会に参加しています。6月2日の大会では2連敗で降級となってしまいましたが、次回は昇級を目指し頑張ります。なお、テニスに興味のある方は随時募集中です!…が、テニスをして必ず瘦せられる訳ではありませんのであしからず。

次回は、国際部留学生交流課の熊谷暁彦さんです。  
「1期後輩の彼は、盛り上げ役として頼りになる存在です。いつも笑顔の絶えない好男子!」

※所属、職名は2013年6月現在



本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

〔茗溪会とは〕 一般社団法人茗溪会（江田昌佑理事長）は、筑波大学同窓会を母体とする社団法人で、1882年に設立されました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校（東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など）の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

## 「ラグビー部の軌跡」展と講演会を東京・茗溪会館で開催

筑波大学ラグビー部が大学選手権標準優勝に輝いたことを記念して、茗溪会が筑波大学および茗溪学園の共催を得て開催した「ラグビー部の軌跡」展は、4月20日から6月2日まで、2期に分けて延べ34日間にわたる長期展示会となりました。

4月20日のオープニングでは、「筑波大学ラグビー部のこれまでと今から」をテーマに、中川昭氏（本学ラグビー部部長）と、古川拓生氏（同監督）による講演会があり、永田恭介学長はじめ大学およびラグビー部の関係者多数が参加されました。

また、第2期展示初日の5月11日には、「茗溪ラグビーに期待するもの」と題し、茗溪会理事長の江田昌佑氏による基調講演と、パネルディスカッションを開催しました。

江田氏は、「草創期の茗溪ラグビーを語る時、忘れてはならない人に、東京高等師範の卒業生で、ラグビー部の「部歌」を作った工藤一三さんや柔道家の岡本平太さんがいます。岡本さんたちは、文献をあさり、辞書を片手に原書を翻訳し、一から実践をしながら、ラグビーを自分たちのものにしていきました」「開学当時のつくばの地は、何も無い荒野のようなところでした。この地に生活



江田昌佑氏



の糧となるようなスポーツ文化を築こうと皆で考え、お年寄りから子どもまで楽しめるラグビークラブ、“ツクバリアン”をつくりました。英国の伝統あるラグビークラブの名称“バーバリアン”をもじったものです」などのお話をされました。

続いて、司会の伊與田康雄氏（本学名誉教授）が、「筑波大学ラグビーをどのようにみているか」「七人制のラグビー」「ラグビー選手のプロ化と大学ラグビーのあり方」などの問題を提起し、パネリストによる意見交換が行われました。



伊與田康雄氏

### パネリストの一言

**辻高志氏**（元早稲田大学ラグビー部監督、茗溪学園ラグビー部OB）

「筑波大学の印象は『とても勤勉なチームだな』ということです。教育者を目指している人が多いという学校のカラーもあると思いますが、対戦する前に私たちの全てを分析されているというように感じていました」



**田村一博氏**（ラグビーマガジン編集長）

「最近、筑波大学に行きたいという有望な高校生が増えているということについて取材したのですが、その一番の理由は『寮がないから』でした。楽をしたいというわけではなく、『人間は一人で考える時間が必要だから、自分たちはそれを求めて筑波に行きたい』ということでした」



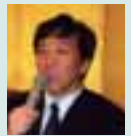
**前田嘉昭氏**（本学ラグビー部OB会長）

「筑波大学ラグビー部の大きな役割に、人材の育成があります。最近では、生涯スポーツ社会の構築が求められていますが、わが国では、欧米のような生涯を通じてスポーツを楽しめる環境はまだ少ない。子どもからお年寄りまで、そして、元気な時だけでなく体力が衰えてからもスポーツを楽しむことのできる社会づくりのリーダーを育ててほしいと思います」



**中川昭氏**（本学教授・体育系長・ラグビー部長）

「どこかで、当事者自身が立ち止まって、『大学ラグビーはどこを目指していくのか』ということを議論し、これからの方向を考えていかないと、大学スポーツの理念が失われてしまうのではないかと危惧しています。だから私も筑波大学では、そこを見失わないように『大学スポーツの王道を目指そう』ということを念頭に置いてラグビーに取り組んでいます」



## 学生宿舎のお祭り「やどかり祭」

5月24日、25日に、学生宿舎の学生が運営する宿舎祭「やどかり祭」が開かれました。例年のように「つくば大演芸」「火文字」「御興展示」「ゆかたコンテスト」など、多彩な出しものが演じられました。茗溪会から今年も助成金を贈りました。（写真下）







本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

〔紫峰会とは〕 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

## 課外貸付金について

課外貸付金は、課外活動団体の活動のため臨時に多額の費用が必要な場合、その団体に所属する学生に対して貸し付けるものです。サークル活動を始める際に用具などを購入しなければならない、季節的に出費が非常に多くなる、といった場合の利用が目立ちます。無利子で最大20万円（返還期限：1年間）を貸し付けており、文・芸・体各執行部が連帯保証人となるというのも特徴です。丁寧にヒアリングし、返済計画の作成にも協力することで、経済状況が厳しい学生でも積極的に課外活動へ参加できるよう後押ししています。

### 課外貸付金報告 ユンスロ 尹授老（理工学部工学システム学類2年）

初めまして、体育会総務局長・サイクリング部所属の尹（ユン）と申します。課外貸付金のおかげで日本での留学生活が更に有意義なものになりました。とても感謝しています。

私は韓国の高校を卒業し、筑波大学に留学しました。留学して基盤もなく知り合いもない状態でしたが、サイクリング部に入学してさまざまな人に出会い、学業も頑張って生活してきました。しかし、1年生のあるとき、「ツーリングだけでは物足りない。競技に出たい」と思いました。日本学生自転車競技連盟（JICF）の競技に毎回出場し入賞している先輩たちを見て、自分もこれからはJICFに登録して筑波大学だけではなく、他大学の選手たちと競争しながら自分の視野を広げたいと思いました。

しかし、留学してからは親に経済的な負担をかけたくなかったの、競技用自転車の購入は自分の大きな悩みでした。

そんなある日、体育会の財務局長から紫峰会の課外貸付金の説明を聞き、「これは自分の夢に近づける機会」と思い、貸付金の申請を行いました。

現在は学業と共に日々練習に励み、来年のインカレに出場するのが今の目標です。貸付金のおかげで自転車に対する愛情は強く、経済的な負担は軽くなりすごく助かりました。これからも学業・自転車・その他の活動をしながらこれから2年半残っている自分の留学生活を楽しみたいと思います。

## 第1回定期公演～ありがとうを舞にこめて 筑波大学斬桐舞



YOSAKOIソーランサークル筑波大学斬桐舞の「第1回定期公演～ありがとうを舞にこめて」が2月2日、つくばカピオで行われ、会場には100人以上の学生・市民らが訪れました。公演では、「全国総踊りメドレー」やオリジナル曲の演舞などが行われた他、「天久保オールスターズバンド」や「ときめき太鼓塾」による演奏、「ジャグリングサークルSheep」のパフォーマンスに合わせての演舞、つくば市を中心に活動するYOSAKOIソーランチーム「筑波よさこい連」との合同演舞など、コラボレーション企画も行いました。また、斬桐舞と映像制作団体「TAM-Project」が共同で考案したオリジナルヒーロー「双嵐龍」も登場し、さらに金八先生で

もおなじみの「南中ソーラン」や岡山県の総踊り「うらじゃ音頭」の演舞披露では来場者の8割が席を立ち、隣の人と手を繋いで輪を作り、観客と踊り子関係なく盛り上がりました。

斬桐舞はチームコンセプトとして「ユニバーサルソーラン」を掲げ、公演でもこのコンセプトを意識した取り組みを積極的に実施しました。留学生や在日外国人など国際化の進むつくば市に合わせ、パンフレットのプログラムは英語・韓国語仕様も作成した。聴覚障害者向けには、手話通訳を取り入れたり、MCをまとめた資料等を作成したりしました。また観客と踊り子の垣根を取り壊したい、という思いから、目で踊りの振りやその意味がわかる「ビジュアルパフォーマンス」を取り入れたり、鳴子を会場に配布し、一緒に鳴らすことによって、より会場の一体感を作り出した。なお、今年度の「アイラブつくばまちづくりキャンペーン事業」の一環として、つくば市内の地域演舞

においても鳴子を配布しました。

本公演を通して、斬桐舞がこのように成長したことを会員一同で再確認し、お客様や支援・応援してくださる地域の方々にあらためて感謝を伝える機会となりました。YOSAKOIソーランを踊ることで生まれる元気や笑顔で繋がる空間には、踊り子・お客さん・障がいの有無・年齢など、全ての垣根が存在しないという思いを胸に、今後も地域とのつながりを大切にしながら、様々な活動に挑戦し続け、地域に根ざしたYOSAKOIソーラン団体であり続けたいと思っています。



# Media Appearances

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(2013年4月~6月)

## 新聞記事一覧

	記事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	永田恭介新学長が所信表明	永田恭介学長	毎日・茨城・読売(4.2) 産経・常陽(4.3)
2	県タクシー・ハイヤー協会は、五十嵐浩也教授がデザインしたエコタクシー車両を披露	五十嵐浩也教授(芸術系)	茨城・日本経済・常陽(4.3) 朝日(4.4)東京(4.7)
3	新潟県が、ロボットスーツHALの普及や開発を支援	山海嘉之教授(システム情報系) サイバーデザイン	日本経済(4.5)
4	▽インサイド記者の目:アートで彩られた空間の設置、アートワークショップ開催等、本学の「ホスピタルアート」の取り組み紹介	附属病院	茨城(4.2/7)
5	第6回「つくばスポーツ大賞2012」グランプリに、本学ラグビー部	内田啓介(体育専門学群4年)	茨城(4.8)
6	4月8日に、本学入学式。入学者数は、学群生2184人、編入生110人、院生2380人	永田恭介学長 鷲塚澤(生命環境学群1年) 久保田美咲(同1年) 松井亮仁(同1年) 櫻井咲人(芸術専門学群1年) 掛神有希奈(社会・国際学群1年) 菊池美優(人間学群1年)	朝日・毎日・読売・産経・ 茨城・常陽(4.9)
7	ラグビーの日本代表に、本学から内田啓介選手、福岡堅樹選手	内田啓介(体育専門学群4年) 福岡堅樹(情報学群2年)	茨城(4.9) 毎日・日本経済(5.14)
8	平成25年度科学技術分野文部科学大臣表彰 【科学技術賞・研究部門】赤平昌文特命教授、【若手科学者賞】二瓶雅之准教授	赤平昌文特命教授 二瓶雅之准教授(数理工学系)	読売(4.10)
9	永田恭介学長が、スポーツ科学分野の国際大学ランキングを作る計画を発表	永田恭介学長	日本経済(4.11)
10	常総市は、本学らの協力を得て、介護予防体操「JOSO☆ハッピー体操」を制作	安梅勲江教授(医学医療系)	毎日(4.11)
11	本学サッカー部 赤崎秀平、J1鹿島への加入内定	赤崎秀平(体育専門学群4年)	茨城(4.13/14/18) 読売(4.18)
12	本学は、小型衛星「結」の応援キャラクターのデザインと、衛星のデータを受信する人たちが交流するためのアプリケーションソフトのアイデアを公募	広報室	毎日・常陽(4.19)朝日(4.20) 読売(4.23)
13	柔道全日本女子選手権で、緒方亜香里選手が初優勝	緒方亜香里選手(OG 徳寺学園職)	朝日・東京(4.22)
14	本学渡邊信教授が進める復興プロジェクトの一環で、仙台市に、藻類バイオマスの研究開発施設が完成	渡邊信教授(生命環境系)	読売(4.23)
15	川崎真弘助教らの研究グループは、他人とコミュニケーションを取る際、2人の脳波のリズムが同調することを明らかにした	川崎真弘助教(システム情報系)	日刊工業(4.23)
16	附属病院で、歩行障害のある人たちがロボットスーツ「HAL」でリハビリしたところ、歩く速度が向上したと発表	山海嘉之教授(システム情報系) 江口清准教授(医学医療系) 附属病院	毎日(4.25)
17	科学技術週間で、本学は「キッズ・ユニバーシティ」を実施。 亀田敏弘准教授が小中学生に講義	亀田敏弘准教授(システム情報系)	読売(4.27)
18	授業の自由課題で制作した「抱きしめられる」を疑似体験できる装置「リア充コート」が、ネット動画で大評判	鈴木健嗣准教授(システム情報系) 大森舞人(理工学群2年) 進林昂太(同) 杉浦光(同)	読売(4.30)毎日(5.16)
19	山本美希さんの「Sunny Sunny Ann!」が、第17回手塚治文化賞 新生賞	山本美希(人間総合科学研究科 博士後期3年)	朝日(4.29)毎日(5.9) 読売(5.21)
20	本学の授業の一環『創造的復興プロジェクト』の「北条チーム」が、竜巻被害の北条で活動	安藤邦廣名誉教授 今実佐子(芸術専門学群4年) 宮崎玲子(同)	毎日(5.3)
21	本学の鬼頭昭雄主幹研究員らは、今世紀後半、ハワイに接近するハリケーンは、近年の2~3倍に増加するとの予測結果を発表	鬼頭昭雄主幹研究員(生命環境系)	茨城(5.6) 日本経済(5.7)
22	本学らの産学官連携チームは、開発中の次世代がん治療装置から、本年中に、中性子ビームを発生させる予定	熊田博明准教授(医学医療系 陽子線医学利用研究センター)	茨城(5.9)
23	本学は、「国際植物の日(5/18)」に、イベント「筑波大学みどり散歩」を開催	上條隆志教授(生命環境系)	読売(5.12)朝日(5.14)
24	「いばらき腎バンク」が「ねこのせぶちゃん」を発行。 大河内信弘理事長(附属病院副院長)が、企画意図を説明。	大河内信弘附属病院副院長 平井理心(病院総務部医事課)	朝日(5.17)常陽(5.19) 産経(5.23)
25	附属病院が、国内で初めて導入した、手術中の患者を移動することなくMRI検査ができる手術室を報道陣に公開	松村明附属病院副院長 阿久津博義講師(医学医療系) 附属病院 けやき棟	朝日・読売・日本経済・ 茨城(5.23)東京・常陽(5.24) 日本医科器械新聞(6.1)
26	本学は、10月1日より、ICタグを用いた自転車登録制度の運用を開始する予定	岩本浩二講師(企画室) 学生部	茨城(5.23)
27	▽教育ルネサンス 道徳の力:道徳の指導法~加藤宣行教諭	加藤宣行教諭(附属小学校)	読売(5.25)
28	▽天声人語:徳田克己教授が、「歩きスマホ」について学生にアンケートを実施	徳田克己教授(医学医療系)	朝日(5.25)朝日(6.4)
29	大毛利健治准教授らは、金属酸化膜電界効果トランジスタ(MOSFET)の雑音(特性の揺らぎ)を広い周波数帯域で計測する技術を開発	大毛利健治准教授(数理工学系)	日刊工業(6.11)
30	▽未来は来たか 学園都市50年 第4部 英知④:睡眠と覚醒の謎に挑む柳沢正史教授	柳沢正史教授(分子行動科学研究コア)	茨城(6.13)
31	附属病院と料理レシピサイトを運営するクックパッド社が提携して、糖尿病患者らに向けた献立を作り、無料公開を開始	矢作直也准教授(医学医療系)	茨城・日本経済・常陽(6.13)

## テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	小野智華子さんのロンドンパラリンピック出場までの軌跡	小野智華子(附属視覚特別支援学校 高等部1年)	日本テレビ 「まっすぐに智華子、夢へ」(4.27)
2	サルコベニア肥満について解説	久野譜也教授(体育系)	NHK総合 NHKニュース「おはよう日本」(4.30)

※所属、職名、学年は2013年6月現在

# Event calendar

## 7 july

- 4日(木) 大学院入学試験(推薦)(~5日)
- 7日(日) 筑波大学開学40+101周年記念  
なでしこサッカー教室つくば
- 13日(土) 入学試験「編入学」(~14日)  
「帰国生徒(10月入学)」
- 15日(月) TIA連携大学院  
サマー・オープン・フェスティバル2013  
(~25日・21日除く)
- 24日(水) 合格発表「編入学/帰国生徒(10月入学)」
- 25日(木) ひらめき☆ときめきサイエンス  
~ようこそ大学の研究室へ~  
KAKENHI(中高生対象)(~26日)
- 31日(水) 医学セミナー

## 8 august

- 1日(木) 春ABCモジュール期末試験(~7日)
- 3日(土) 夏休み自由研究お助け隊(~4日)
- 5日(月) 夏休みサイエンス体験合宿(~7日)
- 7日(水) ひらめき☆ときめきサイエンス
- 9日(金) 数学類・物理学類体験学習、  
一日体験化学教室
- 10日(土) 夏季休業(~9/30日)
- 11日(日) ひらめき☆ときめきサイエンス
- 18日(日) 医学セミナー
- 20日(火) 大学院入学試験(8月期)(~23日、27~29日)
- 23日(金) TIA連携大学院  
サマー・オープン・フェスティバル2013  
(~9/3日、9/1日除く)
- 24日(土) 大学説明会(~26日)  
第9回筑波スポーツ医学セミナー

## 9 september

- 3日(火) TIA連携大学院  
サマー・オープン・フェスティバル2013  
第3回日独ナノワークショップ
- 10日(火) 大学院入学試験(8月期)合格発表

